

# 婦人と子ども

第五卷  
第五號



フベール會發行

## 第八卷第五號目次

● 獨逸に於ける幼稚園教育の

狀況

乙 竹 岩 造

● 兒童の個性及取扱法

松 本 孝 次 郎

● 實用兒童學講義

中 村 五 六

● 遊戯とは何ぞや

和 田 實

● 育兒の經驗

光 藤 泰 次 郎

● 牛肉と魚肉

二 葉 生

● 熱心なる母親の質問

白 山 生

● いなとぼら

川 口 孫 次 郎

● 湖畔記

朝 露 生

● 短 歌

● 雨の日

鈍 子 譯

## 投稿募集

一種類

● お伽話 本誌中ヶ年分以上三ヶ年分  
 選擇の上本誌に載録せるものは  
 内規により原稿料を呈す

● 一般記事

但し右賞品は受賞者の希望に依りて會費と差引き若しくは自ら取  
 らずして其指定する人に本會より直接送ることを得

一注意

お伽話及一般は記事一行廿二字詰にて牛紙又は罫紙に書  
 かれたし原稿は凡て返戻致しません此募集は期限を定めません毎  
 月十日迄の分を其月に選評し後は翌月に回はし何時迄も引續いて  
 行く積りです。

宛名は本會へ直接御送り下さい。

開き封で應募原稿と標記すれば三十文迄は郵税二錢で参ります。

## 質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する  
 事なら何でもお尋ね下さい。往復はがきか又は通信料封入ならば早速  
 に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

## 入會又ハ購讀手續

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ年  
 分をまとめて本會に直接御申込下されば直に登録して雜誌を發送致  
 します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合の前金で本會  
 か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい。

一冊郵税共金拾一錢 ● 六冊前金郵税共六拾錢

● 拾二冊同金壹圓貳拾錢

● 郵券代用一割増

## 夏期講習會開催豫告

フレイベル會は本年の夏期休暇を利用して幼児保育事業に熱心なる人々の爲めに音楽及保育法に就きて三週間の講習會を開設せんとし、目下其準備中なり。詳細なる事項は來る六月號にて發表す可し。世の育児に熱心なる父兄、母姉並に幼稚園事業に關與せる方々及是より保母たらんと志望を有する方々は詳細なる事項御熟覽の上奮つて御入會あらんことを希望す。

明治四十一年五月

フレイベル會

# 大日本高等女學會

前付ノ二

月謝金四十錢、一年半にて卒業證書を授く

本會は帝國の良妻賢母たらん女子に向ひ、第一に女學の必要を自得し、斷片の雜誌勉強に安んぜず、秩序を立て、自修研究をすゝむ。

▲家庭にて女學校の課程を獨習せん者は 入會せよ。

◎高等女學講義及び婦人雜誌 大家庭と會員に頼ち、通信教授をなす

▲本講義録は文部省の高等女學校教授細目により獨學の夫人方、女學生、女教師方の自修研究の良師友たらんとす。

▲下記の教育大家が専心工夫して教室に臨むが如く親切に講述をなす。

▲本會は會頭以下の役員が責任を以て會務を處理す。これ本會獨特にして營利的學會と全く異なる所なり。

▲本會の附屬の慈善教育部、女藝教習所は學資に乏しき女子に無月謝にて女藝を教授し、又は講義録を配與す。

▲本部及び各地の支部にて毎月開く學藝會は會員の爲め、女藝の實習、質疑應答、歌文の添削、講話等をなす。

會頭 公爵夫人 二條洽子

副會頭 子爵夫人 青木楠枝子

顧問 男爵 肝付兼行

理事長 愛住女學校長 小貝貞子

理事 有馬男爵夫人 外十七名

○高等女學講義 學科及講師

國語 東京高等師範教授 吉田彌平

修身 東京府高女教諭 市川源三

算術 東京高等師範教授 生駒萬治

歴史 東京高等師範教授 峰岸米造

英語 文學士 池田夏苗

家事 女子高等師範教授 宮川壽美子

裁縫 女子高等師範教諭 吉村千鶴子

植物 女子高等師範教諭 竹島茂郎

理化 東京市視學官 濱 幸次郎

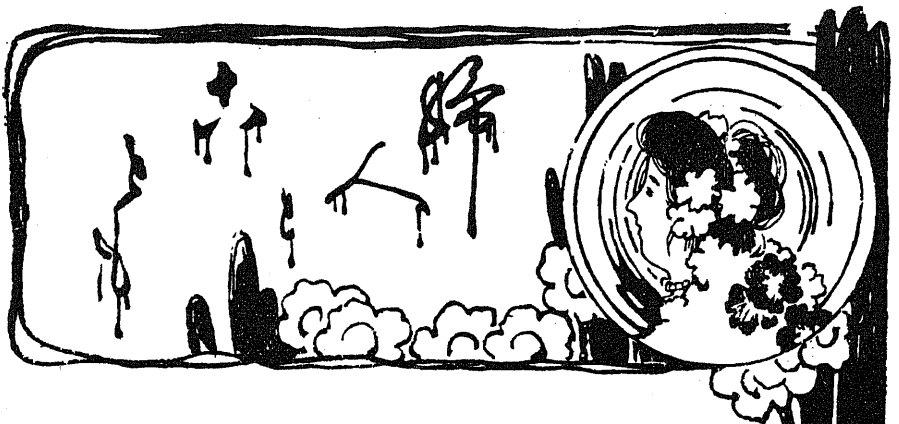
其他本科及び科外講師五十餘名

規則書はかきにて請求せよ

東京市牛込區 白銀町十九番地

大日本高等女學會

振替貯金口座 第二一一一番



## 第八卷第五號

### 玩具

子供におもちゃを買ひ與ふこと中々に容易からず。是はと思ふものは忽ち數圓の高價を食らる。高價なる玩具果して夫れだけの價値ありやは蓋し疑問なる可し。全体子供には幾何の玩具が必要なるものにや。之に關する根本的標準と云ふ様なものはなきものにやとは常に吾人の不審かる所なりき。或は破壊し易き玩具は宜しからずと云ひ或は破壊し易きもの却つて益ありと云ふ此問題も一應解決の必要ある可し。所謂教育的玩具と銘打つたる新案もの續々と現はるゝ一方には駄菓子屋の店前には舊式玩具の依然として勢力を占めつゝあるものあり。子供の玩弄中に何れが何程の陶冶力を現するものにや心あるものゝ知りなき所なるべし。メンコ、ネツキ等は極めたる非教育的玩具賭博類の玩具として現今尙一般に排斥せらるれど之れにも増して賭博的なる諸種の當ても玩具は特許の榮名を貰ふて何處の玩弄物店にも威張り散らしつゝあり。世の幼児教育に熱心なる方々は今少し此方面の研究をなされては如何に？

# 獨逸に於ける幼稚園 教育の狀況

文部省 乙竹 岩造  
視學官

本日フレイベル先生の薨去せられたる日に當り此總會に於て不肖私の如きものが御話申上げることを得るのは誠に光榮と存する次第であります。話題は「獨逸に於ける幼稚園保育の狀況」とも云ふべきものでありまして其一端を述べて御參考に致さうと存じます。

獨り獨乙のみならず歐洲の保育事業は最近に於て一新徵候を呈しました其徵候とは從來保育と云ふ仕事は教育政事上のものとして研究せられましたのに反し今日では更に社會見地上から研究する様になりました之れを分りやすく云ひますならば從來の幼稚園は學校の豫備の仕事をする所として居りましたのに反し家庭の代りをする所として研究する様になりましたのであります、實例を以て申しますと獨乙では近年國民幼稚園と云ふものが日に月に増加する氣運に向ひました、此國民幼稚

園と云ふ詞の中に云はれました國民とは國民學校の國民と同様の意味でありまして下層社會に位する人民を意味するのであります即ち下層社會の人民の子供の幼稚園が増加する様になりました例へば柏林で百以上の幼稚園中に中流以上のものはステブリッツのもの只一つでありまして其他は所謂國民幼稚園ばかりであります、斯く殆ど總ての幼稚園が下流社會の子供を收容する其獨乙の幼稚園は實に二大中心の下に集中せられて居る感があるのであります、其二大中心は何かと申しますと一つはフレイベル會一つはベスタロツチフレイベルハウスであります現時に於て前者の牛耳を取てゐるのはフロレンソツペンフワイム女史であります此女史はいかに亂暴なる子供でも其膝下に置けは直ちに懐くと云ふことを以て有名であります後者は其本據を柏林の郊外に近きセーネフェルに有し幼稚園保育の實際と保姆の養成とに従事しリヒター夫人が之れを卒ひてをります。

此二者間に於ける差異點は前者は専ら幼兒の保育のみをとり後者は幼稚園時代の子供に小學校時

代のこゝを加へました即ちフレールとベスタロツチとの方法を同時にに行はんとしたのであります以上の如き有様でありますから近時獨乙に於ける幼稚園は我國のもの大に其保育法を異にしてをります然らば何故にかか新一徴候を來したかと思し申しますと其れには世の自然の形勢が大に預つて力があり申す詳言いたし申すれば最近生存競争が日に盛となり困難を感じ家庭の生活にも非常なる影響を受くる様になつたからであります昔は「世の中は品性陶冶の學校なり」或は「廻る浮世の子連など申しましたけれど今は火の車が廻る世となりました、故に家庭にも大なる影響をうけ子供の教育に盡力することが出来ぬ様になりました又工藝技術が進歩いたしました爲め夫妻共に働く様になり其結果として到底家庭に於て子供の教育を引き受くることが出来ぬ様になりました、加ふるに大都會の急激なる發達の結果三乃至八階上に住む人が生ずると同時に一二階地下に住む人もも生ずる様になりました其等下層人民の空氣は常に腐敗し光線は不充分であつて之等の子供は到底充

分なる發達をなし得ない有様となりました此に於て子供は學校に入る前に全々家庭に依頼することが出来なくなり其結果として國民幼稚園が大いに發達いたしました。幼稚園の設備が出来た以上は人民が其子供を依頼することを了解せよければ之れを解するもの少なく又貧窮となつて自身の空腹を救ふために恩愛に迷ひながらも其子を捨つるものが多くなり申すは、此に於て一方には幼稚園の他に捨子又は捨てざるも親たちが殆んど養育し得ない子女等を收容する孤兒院、兒幼保育所、嬰兒救養所等の設備が並び發達する様になりました、之が最近に於ける保育の有様であります。

然らば更に進みましてかゝる保育に盡力する保母等は如何なる人であるかを考へますに保育事業が下層人民に向ふに反しまして之れに盡力する人は上流の人々であります例へばベスタロツチフレールハウスに於ては親が働かに行く際其子を預け置き歸りには「何番の子を下さ」と其子を受取り申すのに反して同所に養成する保母は十分の七ま

では良家の人であります然して之等の人は何れも保姆養成所を出ました後保育に従事するかと申しますのに決してそうではありませぬ、其一部分は従事いたしますけれども他の部分は自身の修養のためにいたします、兒童保育所、幼兒保護所、幼兒保養所では其組を受け持つ人の他に子供と共に遊び共に散歩する人がありませぬ、之等は凡て自由意思から出るものでありまして何れも上流の婦人でありませぬ、かく上流の婦人が保育に盡力すると云ふことについての利益は、一、子供によきことを知らせる、二、保育に従事する人はひまな時間を有益なことに用ゐませぬ、三、保育問題が上流人の脳裡に浮ぶ様になりませぬ。

斯様に婦人が一般に保育事業に貧兒保護に興味を有し積極的に研究する様になりましたのは自然の勢ではありませぬけれども女子運動又預つて方がありませぬ、女子運動につきましても此所に論ずる必要なく別問題であります、又國狀の異なる以上は其れが我國に適するや否やは定まりませぬ、けれども或種の有益な問題につきましても研究しつつあ

るは實に感すべきことでありませぬ、かかる有様で進歩いたしました女子運動は又幼兒の保育問題を捉へ有益なる方法を施さうとする氣運に向ひ上流人が益保育に盡力する様になりました。

日本婦人は育兒問題につきましても立派な事蹟がありまして歐州人の敬服する所でありませぬ、三十七八年の戦争の時連戦連捷の報は歐州に傳はり何れも自國の如く注意しました此時歐州人が我國をいかに觀察するかを見ることが出来ました、即ち歐人は日本人が舉國一致して團結力が強いことを認めました、又其他の日本の婦人が良妻賢母として姉妹祖母として家庭生活殊に國民の精神教育中に強大なる仕事をしたことを認めました、斯くの如く育兒につき其長所を承認せられし我婦人は其育兒の方法を大に工夫せんことをつとむべきであります。

然らば次には獨逸に於ける幼稚園の保育に關する方法につきましても述べませう、其最も特色とする所を云はば近時保育としては三つあります。

一、家族主義 幼稚園の内容を成べく家族的にせ



んとし組み合せの如きも成べく少なくして幼児も長幼を混じりまた設備上よりも家庭的とし保母は母の如く幼児は兄弟姉妹の感を起さしめる様にする方針であります

二、勤勞主義 職業を尊重し勞働に對する興味を引き起さうとするものであります遊嬉に於ても安りに大人の舉動をなさしむるのではなく實際上の種々な材料によつて遊嬉訓話を組み立てる様にしてください

三、養護主義(体育主義) もとより精神陶冶を等に附するのではありませぬけれども更に身体上の一層の注意を拂ふのであります、幼稚園内に賄を設け牛乳を與へ食後は安眠させる等凡て身体上に重きを置きます、其子供は多くは貧民の子女でありますから其點から見ると實に必要なことと思はれます

幼稚園の仕事は或人も云ひました如く其の要領は發達でありまして發達は人間自然の現象でありますから之れを放置するも發達いたしますけれども適當なる發達をすることは出来ません、我國にも

一時幼稚園に對する批難の聲がありまして幼稚園の鑄型に入れるは最も悪しく子供は自然のままにすべきであると申しました、けれども自然のままにせよと云ふことは屢々放任の意義ともなりまして此聲は破壊的のものでありますまた深切な要求ではありませぬ

元來發達は自然でありますけれども老年よりは青年、青年よりは幼児、嬰兒、胎兒と溯るほど最大なる發達をなすものであります、故に幼兒は人間中發達の盛な時でありまして保育は廣い意味に於ける教育中最も大切なものであります、然らば人間は身体の各部同じ様に發達するかと申しますれば決してさうではありませぬ、或人の研究によりますれば十七八才になるまでに筋肉四十、心臓十二、五骨二十六、頭三、七倍の發達をいたします、子供を其ま、擴大しますれば怪物の如くなるものであつて其發達の各部の比は常に同一ではありませぬ複雑なる法によるものであります、精神の發達に於きまして凡ての子供の精神發達は同時に起り同一に發達するものではありません、運動觀念

は早く連合觀念は遅く發達するものであります。かく複雑なる發達は幼兒に於て最も大なりとせば幼兒保育は大に必要であつて又困難なるものと云ふべきであります。最後に子供は自然に放棄して發達するや否やにつきまして自然に放任せよと云ふ人もありますけれども之の尙一を知りて二を知らざるものと云ふべきであります、子供を自然に放任する時は悪くはなりません、善くなることはありませぬ、子供は無邪氣なりと云ふも其性質果して善かと云ふに決してさうではありませぬ。殘忍虚言破壞等は凡て小供にありませぬ、無邪氣と云ふは悪氣なしと云ふことにはよろしきも悪しきことをせぬと云ふ意味とするは誤であります、故に子供は或點までは悪しき心を有せり、されども發達し保育せらるるによりて悪しき萌芽も破られ善に向ふものなりと云ふは真理であります、之れによりて見ますれば保育によりて悪を滅じ善に進めんとしまするには大なる方法、工夫を要するもので諸氏は之等につきて大に盡力研究せられんことを希望いたします。

◎豆腐の早造り (佐保安次郎氏)

△たつた一時間で出来る  
此法だと大豆の粉さへあれば家庭で容易く豆腐が出来る。先づ大豆一升を粉に碎けば凡そ三百三十匁位になる、假りに一釜(飯炊釜)五升炊とすれば一貫五百五十匁の粉を假りに八九升の水に入れて之れを練りながら漸々水を加へ凡そ一斗位までにする、又冬季はマルマ湯にする、夏に角白くなるまで充分に能く練るのであるが必ず平手でしてはならぬ、又練る中に粉を握るとマ、子が出来ていくら煮ても解けはしない、豆腐の出来不出来は此練方一つにあるのだ、釜の湯は従前の量より三割方多くし、苦汁は従前の量より三割方少くする、出来上つたらばスグ喰へても宜いけれども春なら五六時間、夏は一時間、秋は三四時、冬は八時間から十二時間位經つて食すると風味が佳い。(讀賣新聞)

◎花嫁のせり賣 (報知新聞)

△馬市のやう  
露西亞の田舎には花嫁をセリ賣にする奇習のある地方がある、即ちグチヤスク、クチエツカの兩市などがそれで鹽分繁華な市街であるが市日になると、近所近在から娘持つ親達は娘を今日を暗れと著飾らして連れて行つてズウリ列ねて數多の男子共に見せる、自分の氣に入つた娘があると男は頭の前から足の先まで能くく検査して夫から値ぶみをする、花嫁の相場は五圓以上二百圓まで、花嫁は其値段を納得すれば其處で承諾するのである。

# 兒童の個性及取扱法

文學士 松本孝次郎

個性の意義、個性といふのはどう云ふ事を言ふのが、此世の中には大勢の小供がありましても昔から言つて居る通りに人の心は顔の違ふ様に各々違つて居るといふ事を申しましたが、誠に其通りで人々が銘々僅かづゝ違ふ、違つた所の心を持つて居る、個人毎に差異のある心を持つて居る、此個人の差異といふ事をば個性と言ふので、個人的の差異のある性質を名けて之を個性と申します、

同じ家庭に生れた兄弟でありましても其元弟が決して同じ所の性質のものにはならない、それは詰り其小供の生活をして居る間に個性が出来上つて来るからである、誰が見ても此個性が著しく出来る、出来る上かつたと認められるのは何時からであらうかといふと普通の人の眼に分る様になりますのは先づ十歳頃が最著しいのでそれからして青年期になりますれば誰が見ても非常に違つたも

のになつて来るのです、併ながら著しく観察して居る人があつたならば例へば十歳にならない前でありましても家庭に居る間に又は幼稚園に居ります間に將來個性が各々違つて来ます、始めの情態といふものを認めることは決して六つかしい事では無いのであります、此個性といふものはどう云ふ譯で以て出来て来るであらうかと申しますと其一つの原因は遺傳に歸せなければならぬ、もふ生れる時からして其家の血統の爲に遺傳的に或性質が其小供に増して来る、特に神経系統などの欠點といふやうなさう云ふ悪い性質は小供に遺り易いものである、父母の神経系統の弱いといふ事の爲にそこに生れて来る小供の神経系統も極めて弱いことはモウ屢々起つて居ることで唯、小供が生れてから後の育方躰方ばかりで無くして生れる時からして各々の小供に割合に健全な神経系統を持つて来る小供もあるし不完全な神経系統を持つて来る小供もあるので小供の育方に依つて其實が多く現はれるのとそれ程現はれないのと出て来るのであります、兎に角遺傳の爲に出て来る個性

といふものは幾分か宛は必ず誰にてもあると言つて宜いのです、取分け其個性の欠點の著しいのは詰り親がアルコール中毒に罹つて居る家の小供とか或は梅毒性の遺傳を持つて居る人の小供でありますと随分個性の中でも良く無い方の悲むべき個性が多く現はれるやうになつて居る、此遺傳はどう云ふ様な遺傳で以て個性が出来て來やうとも若し育方が餘程満足に行きますならば割合にさう恐る可きものでもありませんねけれ共、若し不幸にして其小供の成長してから後に種心配事でも多くあるとか或は餘り愉快で無いやうな境遇に於て生活しなければならなくなつて來ると、その持つて生れた遺傳の性質は兎角現はれやうとする傾きのありますもので、大概十四歳の頃からいたしましてさう云ふやうな遺傳性から來た個性の欠點のある爲に或は憂鬱病に罹りましたり或は精神が幾らか缺けるといふやうな人も随分數多くあることです、又小供の個性といふものは其小供の智力の發達の仕方、以て餘程變つて來ます、詰り其小供の取扱方、どういふやうな教育を受けたか、

どう云ふ方法をされたか、といふ具合で以て餘程個性の様子といふものが違つて來るのです、昔から言ふ通り「上智と下愚とは移らず」と言いますがそれは非常に賢い人と非常に馬鹿な人とは土臺からして幾らか違いがあるので餘程精神上の發達の不完全な者を非常に賢い者にするといふやうな事はナカク出来るものではありませんねけれ共併し普通の子供でありますならば其子供の教育の仕方、以て餘程變へることが出来るので、智力の發達させ方に依つて子供の個性が餘程我々の思ふ様に導くことが出来ることがあり、それから第三に、此個性の變つて來るのは幾らか偶然の事情に依ります、偶然の事情と此處で申しますのは其子供の境遇、どう云ふやうな境遇の中で育つて來るか其境遇の具合で以て餘程變つて來るものであります、それで個性といふものに付ては近頃教育社會に於ては餘程注意をする様になつて參りました、それはどう曰ふ譯で教育社會が餘程注意するやうになつたかと申しますと、教育といふものは一方から考へて見れば今日のやうな學校教育の

仕方(しかた)で以て申(まう)しますならば誰(たれ)でも同(おな)じ様に教(まよ)育(い)して行く(いく)のであつて國民(こくみん)としては或(ある)範圍(はんぎん)までは大(おほ)抵(たい)一様(いつやう)なる所(ところ)の發達(はつたつ)を望(のぞ)んで居(ゐ)ることは明(あきら)かなることでありませす、國民(こくみん)として或(ある)程度(ていど)まではど(どの)人(ひと)でも一様(いつやう)なる發達(はつたつ)をする様(よう)にありたいと望(のぞ)んで居(ゐ)ることはモウ明(あきら)かな事(こと)である、さうして國民(こくみん)としては共(き)同(どう)的(てき)の性質(せいしやう)で、ど(どの)人(ひと)にも共(き)通(つう)なる點(てん)のあることを望(のぞ)んで教(まよ)育(い)をして居(ゐ)るといふ事(こと)は勿(もちろん)論(ろん)の事(こと)でありませす、併(ひ)し之(これ)を實(じつ)際(さい)の事(こと)實(じつ)に照(て)らして見(み)るといふと取(と)扱(かく)つて居(ゐ)るところの小(こ)供(ども)の個(こ)性(せい)といふものはどうしても是(こゝ)はあ(あ)るものであ(あ)る、それであるからしてど(どの)位(くらい)まで其(その)小(こ)供(ども)の持(も)つて居(ゐ)るところの個(こ)性(せい)といふものを殘(のこ)して置(お)いて宜(よろ)いか、其(その)個(こ)性(せい)をどう云(い)ふ様(よう)にしたら宜(よろ)いか、ど(どの)位(くらい)までは是非(せいひ)共(き)どの小(こ)供(ども)でもをば同(どう)一(いつ)の性(せい)質(しつ)のものに拵(こ)へなければならぬかといふ事(こと)は今日(こんにち)社(しゃ)會(かい)の問題(もんだい)となつて居(ゐ)る事(こと)な(な)んです、それでありませすから唯(ただ)當(あた)り當(あた)りの學(がく)校(こう)組(ぐみ)織(し)になつて居(ゐ)る所(ところ)ばかりで無(な)く幼(よう)穉(ぢ)園(えん)時(とき)の場(ば)合(あひ)に於(お)きませすも今日(こんにち)に於(お)いて此(こ)の小(こ)供(ども)の個(こ)性(せい)、小(こ)供(ども)に依(よ)つて異(こと)なつて居(ゐ)る性(せい)質(しつ)をばどう云(い)ふ様(よう)にし

て宜(よ)いかを考(かん)へて來(き)る必要(ひつとせう)があるのです、それでも私(わたし)は先(ま)づ最(さい)初(しよ)に小(こ)供(ども)の個(こ)性(せい)の中(なか)で發(はつ)動(どう)的(てき)の兒(じ)童(どう)、と受(う)動(どう)的(てき)の兒(じ)童(どう)との個(こ)性(せい)に付(つ)いて御(ご)話(わ)しやうと思(おも)ひませす、發(はつ)動(どう)的(てき)の兒(じ)童(どう)、小(こ)供(ども)の個(こ)性(せい)の中(なか)に發(はつ)動(どう)的(てき)の兒(じ)童(どう)と自分(じぶん)から働(はたら)くことを求(もと)むる方(かた)の小(こ)供(ども)とそれからさういふ無(な)くして他(た)の者(もの)からして働(はたら)き掛(か)けられると言(い)うべき小(こ)供(ども)とありませす、此(こ)小(こ)供(ども)の個(こ)性(せい)は凡(およ)そ二(に)歳(さい)前(ぜん)後(ご)から現(あら)はれませす、それで世(よ)間(かん)では度(たび)斯(ごと)う云(い)ふ事(こと)を言(い)ふ人(ひと)がある、小(こ)供(ども)を教(まよ)育(い)するのにはどうしても放(はな)任(にん)主義(しゆぎ)で無(な)ければいけな(い)ない、小(こ)供(ども)の自(じ)由(じゆ)を奪(うば)つてはいけな(い)ない、斯(ごと)う言(い)ひませす、併(ひ)しそれ(それ)は成(な)程(ほど)自(じ)由(じゆ)を奪(うば)ふといふ事(こと)は悪(わる)いに違(ちが)ひないけれ共(ども)、餘(あま)り放(はな)任(にん)主義(しゆぎ)にやつて置(お)きませす、小(こ)供(ども)の持(も)つて居(ゐ)る個(こ)性(せい)が其(その)儘(まま)に發(はつ)達(たつ)して仕(し)舞(ま)ひませすからして大(おほ)層(そう)偏(へん)頗(ら)な人(ひと)間(かん)にな(な)りませす、一方(いつかた)に片(かた)寄(よ)つた人(ひと)間(かん)にな(な)りませす、それでありませすからして小(こ)供(ども)を取(と)扱(かく)ひませす人は先(ま)づ此(こ)發(はつ)動(どう)的(てき)の兒(じ)童(どう)の性(せい)質(しつ)と受(う)動(どう)的(てき)の兒(じ)童(どう)の性(せい)質(しつ)を充(ちゅう)分(ぶん)に研(けん)究(きゆう)して置(お)いて、さうして其(その)偏(へん)頗(ら)な餘(あま)り一方(いつかた)に片(かた)寄(よ)つた所(ところ)の小(こ)供(ども)の出(で)ない様(よう)に氣(き)を

附ける事が大層肝要であると思ひます、それで此  
 發動的兒童はどう云ふ性質を持つて居るかと言ひ  
 ますと既に小供が啼きます所の啼方で以て其小供  
 の發動的であるかどうかといふ事を見る事が出来  
 る、或小供が自分の悲しい事のありました時に思  
 切つて大きな聲を出してさうして啼き、又怒る時  
 に非常に怒つて腕力に訴へてでも自分の怒の情を  
 表はして怒るといふやうな、さう云ふ小供は發動  
 的の小供にある、自分の感情の表はし方が自分の  
 心の中に残して留めて置くといふので無くして何  
 時でも其通りに外部に表はして仕舞ふ。それが受  
 動的の小供でありますといふとさう行かないので  
 す、自分が悲しくてもナカ／＼外部に表さないで  
 僅かより人に示すことをしない、だから啼方が詰  
 りシク／＼長く泣いて居る、發動的の小供ならば  
 思切つて啼いて仕舞つて直ぐに機嫌が直りますけ  
 れ共受動的の小供ではなかく直らない何時まで  
 いも啼いて悲んで居るといふ風になつて居る、詰  
 り盛んに啼いた方の小供は機嫌が直り易いのはど  
 う云ふ譯であるかと言ひますと小供の感情の性質

と致しまして餘程激烈に起つて来る激烈な表はれ  
 方を致しまするなればもうそれで其小供の生理上  
 の勢力といふものは盡きて仕舞ふ、悲みといふこ  
 とを表はして、生理上の勢力が早く盡きて仕舞ふ、  
 それの表はれ方が僅かづゝ表はしてそれが悲みを  
 表はす生理上の勢力が長く續くから時間の上にな  
 て長い間何時までも残つて居るといふ譯になりま  
 す。  
 此發動的の小供はさう云ふやうな工合に自分の感  
 情を大層容易く表はしますからして此小供の心  
 中にはどう云ふ事を感じて居るかどう云ふ事を思  
 つて居るかといふ事を外部からして觀察すること  
 は割合に容易い、それが此類の小供の餘程取扱ひ  
 易い點になつて居る、其小供の本心とは觀察して  
 認めることが容易くなつて居る、此活動的の兒童  
 は餘程活潑でそれで自分みづから絶へず運動をや  
 つて居ります、始終自分では何かやらずに、居ら  
 ないといふ風で、例へばじつとして繪の本を見て  
 居るとかじつとして自分で或考事をやつて見ると  
 いふやうなさう云ふ工風、さう云ふ類の事をする

爲に自分で長く落附いて居ることは少いのです、そこに又個性といふもの、變つたところが餘程表はれて来て居る、詰り注意といふ事が發動的兒童に於ては割合に長く繼續をしないといふ事が起つて來るのです、勿論此發動的の兒童は注意が長く繼續しないと斯う申しますけれど、一つ事を長くやつて居るといふことは嫌ふといふ方です、だから變つた事になれば幾らでも精力を出してやつて行くので、世間に言うて居る大層飽き易い小供であるといふのは此發動的の兒童の事でありませう、若し斯う云ふ様な性質を其儘に打遣つて置きますならば遂に發動的の兒童といふ者は何事も落附いて深く研究するといふ方の性質は無くなつて仕舞つて俗に言ふ新しい事を何でも好む、目先の變つた事を喜ぶ性質の小供になつて仕舞つた、世間で能く萬屋といふやうな風になつても少し宛やりに掛けて見る、やり掛けて見るけれど一つ深く押通して研究するといふ事が無いといふやうな性質の人に於て仕舞ふ、大きくなつてからして矢張

り目的を立てると言うても極まつた一つの目的をチャンと立つてそれに向つて進むといふ事が出来なくなつてさうして河でも始終目的を變へて居るやうな人になつて仕舞ふ、即ち注意の流動、といふ事が此小供に起つて來る、幼稚園に於きまして小供が唱歌などをうたつて居るところを見ますと身体を動かして歌ふ、自分の首は隣の友達の方を始終見て居る、或は自分の手や足で隣の小供に觸つて居るといふやうな風の小供は大抵此注意の流動して居る小供であります、保母諸君が度々訴へられるところの困る小供は此此注意の流動といふ事がある小供を訴へられることが多いのですが是は詰り其發動的の兒童といふ者が其個性の欠點を幼稚園に於て表はした一つの場合であります。(まだある)



# 實用兒童學講義

女高師 中村 五六

## 一、兒童學とは何ぞや

嬰兒は神々しく幼兒は無邪氣であるとは世人の常に云ふ所である。殊に童男童女の優姿温行は其純潔無垢なる心情と其天真爛漫なる言行と共に古來最も尊む可く最も愛す可きものとせられて居た。併し纏つて是等小兒輩は何故に斯くは愛す可く尊む可きものであるかと問ふものがあつたらば恐らくは誰も明晰な説明をするものはないであらう。兒童學は畢竟是等の疑問を説明せんが爲めに彼等兒童心身の状態を研究して其活動發達の経路を明にせんとするものである。

兒童と云ふのは人の母體より出で、成人する迄の發達期間を總稱したものである。通常は小兒の生れてより滿一年に達する迄を乳兒と稱し是より滿三才に至る生齒期間を嬰兒と稱し次に六七才に達する迄を幼兒と稱へ更に十四五才に達する迄を少

年少女と云ひ是より以後成年に達する迄を青年又は處女と稱するのが普通であるが兒童學が特に考明せんとするのは以上發達期間の全部を包含して之を總稱して兒童と云ふので、之を人間の成熟期間とも稱へるのである。

兒童學は即ち人間の成熟期間に於ける心身の状態並に其發達を研究し叙述せんとするものであると云ふことが出来る。此成熟期と云ふものは心身の状態が不完備の時代で生理上から云ふても又心理上から見ても共に成人に比して大なる差異を有して居るから其取り扱ひに就いては特殊な注意を要することは恰も通常の醫學が小兒に直に應用し難いと同じ道理である。従つて兒童教養の任に當つて居るものは常に彼等兒童の特別な心身の状態を研究して置いて其教養の方法上に無理な注文をしたり無益な勞力を費さない様にしなければならぬ。是が兒童學の興起し來つた由來である。

斯様に兒童學は人間の成熟期間全部に亘つての考明であるが併し其成熟期は凡そ何年位で終るものであるかと云ふことは頗る多様の議論があつて今



俄に一定することが困難である。生理學者解剖學の說に因ると人間の生熟の極度は廿五才であるといふし心理學者に従へば人間は三十才に達する迄は心意は固定的状態を採らぬと云ふから夫れ以前は充分なものとは云へぬ譯である、して見ると兒童學の研究範圍は頗る曖昧なものであるが、併し法律は世界何れの國でも多くは満廿才に達した時を以て丁年即ち成人に達したものと認めて智力德行共に一定の品性を保つて恒常不變の行爲が出来るものとして居る。是は世の必要に應じた最も適切な限度であるから、吾人も之を以て先づ兒童學考究の範圍と定めるのが穩當であらうと思ふ。我輩が本講義に於て述ぶる所は主として此見解に従ひ生初より丁年に達する迄の成熟期間に於ける兒童心身の状態並に其發達を研究し説明せんとするので是が即ち兒童學の任務とする所である。

近來兒童心身發達の状態を調査することが盛なるに連れて心理學生理學に有力な論據を得る様になつたので兒童學は漸く發達の機運に向つた。殊に

方今教育界に於る理論的研究の勃興は遂に兒童心理學兒童生理學兒童論理學兒童衛生學の成立を豫期せしむる様になつた。兒童學はつまり是等の諸學を統一するもので極めて近頃發達した學問であるから、従つて其研究の餘地甚だ廣く將來大なる隆盛を見る可く其隆盛に連れて各種の學問殊に人類に關する科學の隆盛を來すのは明かなことである。況して教育者の如きは斯學を研究せずして果して能く人の子を賦はざることを得可きか疑はしと云はねばならぬ。凡そ人を教育しやうと云ふに其手段方法悉く被教育者の自然的状態に適合しなければならぬ。而して其自然的状态は兒童學の研究に因つて知ることが出来る筈であるから教育者にして斯學を研究しないものがあるならば其は病理を究めずして醫師となつたり敵を知らずして戦つたりするのと同じで到底克つ譯のものではない。

又從來兒童心理學と云ふものが教育上に必要であるといふことは能く一般に知られて居つたけれども然も是は唯兒童生活の一部分に過ぎない兒童

の心理的方面のみを研究したからとして児童の生活の全部を知る譯には行かない。其他に生理的倫理的、方面に於て教育上顧慮す可き諸點は擧げて數ふることが出来ない。要するに児童心身の状態全部を講究することに因つて得るところは悉く教育上に應用す可きもので單に心力作用の一方面のみを知ることを以て全般の教育を施行するに適するかの如く思惟するのは誤れる甚だしきものである。以上は児童學考究の必要なる所以であるが尙其他に種々な利益は斯學研究者に與へられるものである。例へば児童に對する同情の如き児童取扱に對する興味の高きは児童學研究の爲めに一層増加するもので従つて眞に児童を尊重し之を愛護せんとする觀念は湧然として起り來るに至るものである。



## 遊戯とは何ぞや

和田實

十四

幼兒の生活々動は遊戯と習慣の集りであるが故に之を教育する手段や方法も亦此遊戯と習慣との中に見出す可きものであると云ふことは幼兒教育上に於ける吾人の主張である。併し吾人が所謂遊戯と云ふ語は元來極めて曖昧な言葉で往々にして數種の意味に解釋されることがある。或は特に職業を持たぬ人のことを彼は遊んで居ると云ふし、或は日曜の一日を別段爲すこともなく暮したとて之を遊んでしまつたと云ふ。従つて時には遊戯は茫然と無爲閑散の時を過すと云ふ様な意味に用ゐられて居る。併し學校などで教科目中に列記したる遊戯と云ふ字の意義は斯る安穩な意味でなく頗る嚴格な意味を以て居る。此の如き數種の解釋は果して何れが正常なものであらうか、遊戯を以て教育の事項として居る幼兒教育者は此點に關して十分な研究をして置く必要があるまいか。因て吾人は茲に遊戯に就いて復も根本的説明を試み様と

思ふのである。

遊戯とは何ぞやと云ふことに就いて最も注目にする諸學者の説は凡そ三種であるが其第一種は獨逸のシルレルに因つて主張されたもので遊戯の生理的見解とも云ふ可きものである。即ち遊戯は動物の勢力の過剰より生ずる洩氣的活動であると云ふのである。英のスペンサーも未だ之と同様に次の様なことを云ふて居る。

遊戯は勢力の人爲的實證である。自然的實證の存せざる場合に現實の行動に費消せられずして其代りに假現の行動に於て用ひらるゝ勢力の人爲的實證である。

此勢力過剰説は遊戯の起源に於ける必要條件として許容することが出来るが、以て遊戯の全部を説明するには尙不十分なるを免れない。殊に遊戯が教育事項の一として採用せらるるに至つた理由を考へて見れば遊戯は決して此の如く勢力の冗費的活動でないことは明である。要するに此説の採る可き處は其遊戯の起源が身的勢力に背ふ所あることを證明する點に存すると云はねばならぬ。

遊戯とは何ぞやと云ふことに就いて第二に注目すべき説は米國ガートマスの教授ヘルマン、ホーの主觀的心理的見解である。教授は其著教育哲學の中に次の様なことを云ふて居る。

遊戯は仕事の反對なり。仕事は常に達せらる可き他の目的の爲めに爲さるゝものなれども遊戯は常に夫れ自身の爲めに爲さるゝものなり。仕事は愉快なることあり。愉快ならざることもあれど遊戯は常に愉快なり。仕事は嚴肅なるも遊戯は輕快なり。仕事に於ては一般的自我が主となり遊戯に於ては格段なる個人的自我が主となり居れり。

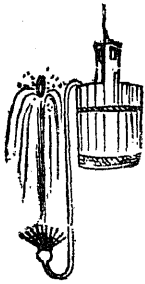
此説は吾人が遊戯の心理的性質を説明するに誠に恰好な論據である。實際遊戯なるものは常に夫れ自身の爲めに爲さるゝものでなければならず。又其結果は常に必ず愉快でなければならぬ。此二つの性質を缺いた時には遊戯の範圍を超えて居るもので或は勉學或は勤勞と認めなければならぬ。又先年我文部省の命に因りて体操及遊戯に關する取調を命せられたる委員の報告説明書とも見る可き

「体育の理論及實際」中には左の數語がある。是もまた吾人の遊戯、遊戯の本質に關する所説を立證するには適當なる説明である。と思ふから茲に引用して見やう。

心理學上より遊戯の意義を考察すれば快感と自由の意識とは人類遊戯の現象に通じたる主要の性質にして、是等の衝動より遊戯は漸次發展し之が爲めに更に精神活動の發展を助くるなり。蓋し遊戯の原始的衝動は生物學的若しくは生理學的根據を有するのみにして、心理的意義は殆んど認め難かる可しと雖も是等盲目的の衝動、意識の上りて其結果快感を覺ゆるに至れば即ち心理的意義は此に明かなりとす。故に遊戯には心身の何れたるを問はず。全体を通じて活動其物を以て快樂とする特質あり。然れども其稍進むに及びては單に活動の快感のみならず其活動を起す主動者は自我にして之を爲すことが自我の自由に基くことを知るに及び快感は一層複雑に一層適切に感ぜらる可し。

成立するであらうと思ふが尙今一つ茲に注目す可き説がある。是は獨のグルースや米のポルドーウイン等に因りて主張されるもので、詰まる所、遊戯を以て人生の事業を爲す豫備なりと云ふのである。此説に因ると人生の諸活動は必ず其萌芽を遊戯中に培養して居るものであるから兒童の遊戯は將來に於ける嚴肅なる生活の用意の爲めに與へられる自然的方法であると云ふのである。實際幼兒の遊戯と云ふものは其主觀的心理状態から云ふても將た又遊戯の實質から見ても共に活社會に必要なる凡べてのものを具有して居るもので美術、音樂、文學の萌芽は勿論、政治、學術、慈善等に關する活動並に諸種の實業、若しくは戰爭等に至る迄苟も人生に現出す可き諸活動の萌芽は悉く之を具有するものである。或意味に於ては彼諸種の犯罪の萌芽も此中に藏せらるゝものであると云つても決して誣言ではない。古きは孟子を始め近くは佛のルツン、英のロック等皆一齊に人性の善なることを主張して子供は清静無垢白紙の如きものであると云つて居る。殊に我幼兒教育の開祖

たるフレールは熱心に幼児の性善説を主張して之を悪くするものは即ち教育者であると迄云つて居るが併し此意味は大体に於ての議論で決して極端に信用す可きものではない。兎に角幼児の遊戯は人生の諸活動、諸出来事の基礎若しくは萌芽と云ふものを悉く所有して居ると見ることは確に間違のないことである。従つて幼児は遊戯に於て其天真を發露し其自我を實現した時に茲に天與の個性は十分に發展することが出来るのである、と云はねばならぬ。是は取りも直さず一種の社會學的見解で自ら又一種の實現説である。之を要するに遊戯なるものは、生理的基礎を有する諸種の衝動と並に此衝動の満足より得られたる諸種の興味とを根據として發達したる幼児の自發活動であつて幼児は之の爲めに發達し、之をあるがために未來を準備し得るものであると云はねばならぬ。



## 育兒の經驗

光藤泰次郎

### 自治自頼(其二)

前に申した様な主義で、養成して参りましたから、數へ年五つになつて、お茶の水の附屬幼稚園にはいつた其の當日から、一所に連れては参りますが、決して誰もついては居りません。大小便其の他自分の事はんだん自分で始末しつけて居りますから少しも吾々は心配しませんでした。しかし如何に自治自頼の風に養成したからとて、矢張り幼児の事であるから、随分とも諸先生方にお世話かけました事だらうと推察して居ります。そして其の多大の御苦勞に對しては、感謝の念に堪へないのであります。さて幼稚園入園の當日から、湯島天神町なる自宅に歸る道をよく教へまして、三四日目から、電車道を横ぎる所まで見てやつて、あとは一人で歸るのをさせなりました。所が最初の中は大人しく歸つて行きました、少しも心配しませんでした。彼長男は始めて一人あるきを始めた

ころから、雄心勃勃として唯真直に家に歸るを好みませんで、單騎遠征ともいふべき冒険を企てました。その冒険といふのは外でもない、日本橋區小傳馬上町なる某小學校に出勤して居る母を訪はうとの計畫でありました。彼は一二回母と共に其の小學校へ行つたところから、多分電車道へついで行けば、行き得らるゝと考へたのでありましよう、湯島の聖堂の後から、街鐵の線路に添うて、神田小川町東明館の前まで行つて、あの邊をうろついで居つたといふと、とうとうおまはりさんのお世話になつて、神田警察署に參つて居りました。宅では母が先に歸宅しましたけれども子供がいつもの時間に歸つて來ぬのは、多分父の所に行つて居るだらうと、子供の歸宅の遅いのを少しも不審に思つて居なかつたのです。所が私が歸つて見たところ、歸つて居るべき筈の長男が見えませぬ。そこで大騒ぎいたしましたし、やつと警察署に居るをがわかりまして、お禮を申しのべて連れて歸りました。ふだんから所番地はよく教へ込んでおきましたし、両親の名もよく知らせてお

きましたけれども、おまはりさんにつれられて、警察署に行つたが爲、泣き出してしまつて、物の役には立たなかつたやうです。これからして自治自願は宜しいが、しかし、子供が自己の力にのみる冒険をやるやうなものは、甚だ危険であるし、子供の物覚えは案外役に立たないといふを深く感じまして、子供には深く訓戒を加へておきました。其の當座はよく謹慎して居りましたが、少し程経ますと、彼は亦もや第二の單騎遠征を企てました。最初は街鐵へついで行つたから道を違へたのである、東鐵について行けば、間違はないといふので萬世橋の所に出で、須田町より、今川橋の所に參りました、今川橋の交番のおまはりさんが之を見て、所を尋ね、交番につれ行かうとせられたけれども、どうしてもさへ入れませんさうでした。所が通りかゝりの麴町邊のさる親切な方が、それを御覽になつて、わざわざ湯島天神町の宅へ連れて來て下さいました。それから重ねて深く訓戒をしまして、子供が單獨で遠征をするものでないと申し聞かせましたら、今度は二度失敗をしたのに

懲りたと見えまして、即ち自己の力を自覺したものと見えまして、それから無謀な遠征なんかを企てるとはなくなりました。こんなくだらぬとを長くかくのは甚だ申し譯のない次第であります。が、子供をお持ちの御方が、子供の自治自願を奨励になるも宜しいが、しかし子供は時として自己の力にあまる冒険を企てるものありますから、寸時も油断はならぬ。又冒險心は必ずしも悪くはない。否悪くないのみならず、其の勇氣は寧ろ賞すべき點があると思ひますから、其の勇氣を挫折せず、よく自己の力を自覺して、相當の金を企てるやうに仕向けるが必要であるといふことの御参考までに申し上げたのであります。

智力の養成

私は痴鈍の子に限つて、程度數の觀念に乏しい。數の觀念に乏しい子は即ち痴鈍の子であると、平素考へて居りますので、どうか自分の子には十分に數の觀念を得させて、遲鈍でないやうにしたいと思ひまして、平生色々の方法を取りました。先づ第一番に數へ年三つになつて、片こととうさん

かわさんといひ始める頃から、あなたは幾つと聞く。最初は答へてもよし、答へないでもよし。否最初は答へられる筈はありませんから、かやうに疑問を發して、あなたは三つと教へながら子供の指を三本出させて他の三本を折り曲げてやる。讀者はそんな事は珍らしくない、世間で幾らもやつて居られるのではないかと言はれるかも知れない。私も敢へて珍しいとは申し上げない、世間で普通行つて居られるのであるが、しかし私は之を數多の方法の中の一とする點がやゝ異なつて居るかも知れぬ。教育思想のある御方は、三つ兒に年齢は幾つなど、いふ抽象的のものがわかるものか數の觀念を得させるにしても、他に適當の方法は幾らもあらう。かういふ仕方には賛成が出來ぬといはるゝ方もありましよう。一應尤の説でありませんが、しかし子供の頭に數のをに就ての種子を植うるものが出來ればそれで満足であります。最初はわかつて子供が答へやうが、わからずにいはうが、そんなとは一切かまはぬと思ふ。朝に問ひ、晝に問ひ、晩に問へば、子供にいつの間にか自分の年

の記憶が出来、數に關する觀念の基礎が出来ず。第二番には數の觀念の基礎は實物殊に利害關係の切なるものより得易いと考へます所から、晩の定まりの菓子なり菓物なりを與へる時に、あなたは幾つほしいかとさいて、さあ三つお取りなさい、とか、五つお取りなさいとか、澤山の中より選び取らせるか、或はさあこれだけあげましよう幾つありますかといつて數へさせる。兎に角與へる所の菓子なり菓物なりを利用して數の觀念を確實にさせやうとつとめるのであります。此の方法を實施しますには一寸躊躇したとがあります。それはあまりに數の觀念が明確になりますと、與へる所の菓子なり菓物なりが一寸でも同一でない、やれ私のは幾つ多いとか、幾つ少ないから、もつと下さいとか、思想が下品になりはしやしまいかと心配しました、しかし、多勢の子供に皆均一に與へるやうにすればその憂はなからうし、場合によつては兄さん故に多くやるとか、小さいの故特別に澤山與へるとか子供の尤もと思ふ理由さへつけてでやれば満足せぬとはなからうと考へて實行

しました。日本在來の思想では金のお勘定も知らず、お米のなる木も知らないといふのが、上品で鷹揚で好ましいとであるとやうに考へられて居たやうですが、それでは將來の社會に處しては到底失敗を免かれまいと考へまして、利害關係なり、數の考へ方は非常に精確に鋭敏であるが、しかし他の思想を以て、上品に高尚にさせることが出来る考へまして、右のやうに實行しました、之れから第三番には毎夜定まりの運動をするときに、一つ二つと數へて數の呼び方を教へるのです。數の呼び方を教へ込むのが數の觀念を確實にする基礎であると考へまして右のやうに致しました、しかし子供には少しも數の呼び方を教へるのだとも何とも申しさかせるのではありません。そら運動をしてやらう、一つ二つ三つ四つと最初には四つ位まで幾度も繰り返して唱へまして、さ一所に言ひなさいといへば、直に口癖に覺えてしまひます。それから範圍をひろめまして十位までにし、それが出来るは今度は一二三四の呼び方に改め、これが出来るやうになればワン、ツー、スリー、フー



アに改め、何れも何れもよく熟するやうにさせる。此の方法を用ひると、子供はちつとも苦勞を覺えず一つの間にか、數の呼び方になれてしまつて、指を折つて數へるとも又實物に當つて數へるとも容易く出来るやうになります。幼稚園に參ります頃には大抵二十までの數へ方は出来るやうになります。その他體操の眞似をします時にも此の數の呼び方をやらせます。第四番に毎朝の冷水摩擦をする時に手足は凡そ五十、背と腹とは凡て百位をすりますすが、其の時にも數を呼ばせます。又湯に入つてこすります時、或は湯に入つて沈んで出やうとする時、其の他苟も機會があれば之をのがさず利用して數の呼び方を練習させます。子供は自分で數の呼び方を習つて居るのだとの意識なしに覺え込んでしまひます。第五番には折々數を逆に數へさせるをいたします。順數のときは子供は無意識的に學ぶことが出来ますか、逆數の時に一寸機會が少く、又無理になり易い傾がありませんが、最初は菓子菓物を與へる折、實物を出して、さあこれに皆で幾つあるか、この中あなたに一つ

わけやう、幾つのこりますか。さああなたにも一つわけやう、幾つのこりますか、といふ風にします。しかし逆數は實物についてやるやうでは効がない、どうしても抽象的に、出来なくてはだめであるから、順數がどしどし精確に出来るやうになれば、こちらから問を出して答へさせるやうにします、順數の方が確に出来さへすれば、逆數はさほど熟練させるに困難なとはありません。第六番に數の觀念を明確にさせるには、順數逆數が如何によく出来てもだめです。二數を比較して其の多少を知るに熟させなくてはならぬ。之をするには例の菓子菓物を與ふる時に之を利用しますし或は兄弟互の年を比較させます。そして又かういふ場合には抽象的に數のみを比較させます。尤も範圍は十以下の數即ち兩手の指を利用し得るものに限りますして、成るべく頭をいためやうに極めて易い所から始めます。かやうな事は一度や二度位やつたとて効のあるものではありません。又一度や二度精確に計算が出来たとて、それで満足すべきではありません。苟も機會さへあれば幾度も幾

度もくり返して、迅速に精確に出来るやうにしむ  
 けなければなりません。之を要するに、家庭に於  
 ては算術の教授をする必要はありませんが、しか  
 し全然數に關する觀念を開發するを怠つてお  
 も誤りかと思ひます。唯數の觀念を開發して  
 て、小學校の教育を受くる際に、困難を感じない  
 だけの注意をしておくことが必要かと思ひます。曾  
 て尋常科初年度の生徒を扱つて見たことがありま  
 が、數に關する觀念の開發の度が入學當初既に大  
 へん違つて居ると及び最初よく計算の出来るや  
 なものは、特別の事故が發生せぬ限りは、いつま  
 でも樂々と學び得るに反して、最初より劣つて居  
 るものは、始終骨が折れるばかりでなく、又いく  
 ら骨を折つても、とても他の優秀なものに及ばな  
 い。それのみならず、數の觀念に乏しいものは、  
 何をやらせて見ても、幾分遲鈍であるやうに感ぜ  
 られたから、其の原因は何處にあるだらうと感ぜ  
 見られた。成る程幾分は先天的に原因するものもあ  
 らうけれども、其の大部分は家庭に於て、數の觀念  
 の培養を怠つて居るに原因するものと考へまして

さてこそ前に申し述べたやうな方法をとつて見た  
 のであります。特別に數を教へるとか算術を授け  
 るとかいふやうなををしないで、日常の規定を行  
 つて行く間に、副似的に數の觀念を開發する  
 出来る。長男の如き此の四月に一つ橋の小學校の  
 か世話になることになりましたが、もはや數へ方は  
 大抵百位まで間違はずに出来ますし、二數の比較  
 ならば、十以下の數については、間違なしに其の  
 差を計算し出すとも出来ますから、あの分には、  
 大勢の學友の間に立つて、數の計算については、  
 さう劣つて仕方がないといふとはなからうかと思  
 ひます。後來如何様に發展し行くかは分りませ  
 んが、現在の有様では、兎に角平均以下に落ちて苦  
 しむといふとはあるまいかと考へて居ります。  
 以上のお話が幾分なりとも、子供の教育に腐心せ  
 らるゝお方の参考になれば、實に私の本懐であり  
 ます。(まだある)



## 牛肉と魚肉

二 葉 生

牛肉と魚肉とは何れが滋養分に富むかと云ば、牛肉の方が滋養分に富んでゐるとは、誰でも知つて居る事でありませう。けれども其の滋養分の割合を比較して申せば、一寸返答に困る方もあらうと思ひます。處で其の比例は如何なものになつて居るか、之れを數字に顯して一目して皆さん方にお分りになるやう、お話をさうと思ひます。

先づ魚肉の方から舉ますと、骨や内臓などは取去りました本の魚肉一キログラム(凡そ我二)を分析したものは、

水分	七九、九	無窒素物	六三、〇
含窒素物	一八三四	灰分	九、三〇
脂肪	五、一〇		

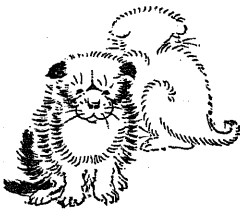
此の表の通りでありますから、假に一キログラムの魚肉を六十五錢で買ふものとして、此の中に含まれてゐる含窒素物、脂肪、無窒素物の價を引去つて、其の滋養分の價を出して見ますと、一キログラムの魚肉即ち二百七十匁で、其の滋養分の眞價だけが三十三錢六厘といふ數字に出ます。さうして見ると六十五錢の魚肉を買つて、三十三錢六厘だけが人体の營養分となり、残り三十一錢四厘は無益ものとなる理窟であります。

牛肉は何うであるか、一キログラム(即二百七十匁)を三十五錢と假定します。其の牛肉中の成分は

水分	七二二、五	蛋白	二〇九、一
脂肪	五一、九	無窒素物	四、八

と示されて有りますから、之れを算用します時は數字に於て、滋養分四十錢九厘といふ價が生じます、牛肉の原價三十五錢よりも多い營養分を備へて居る割となります。

そこで双方を比較しまするといふと、同じ一キログラム即ち二百七十匁の肉で、魚肉は三十三錢六厘の營養分しか無く、牛肉は四十錢九厘の營養分を有て居る譯となるのであります。で、牛肉の假定相場三十五錢に對するだけの、魚肉の營養分を取らうとするには、約八十錢を投じなければ同じ滋養分を得ることが出来ないのです。要するに魚肉より養分を取るには、牛肉の價の二倍半を拂はねばならないのですが、其の價は我々の身体を養ふ上に就て何の必要もございませぬ。畢竟贅澤の爲に餘計の費用を拂ふに過ぎないので、盡所結済に注意をなされる方は、此邊にも亦たお氣を配られると、結済と滋養と相伴うて行くことが出来るではありませんか。



熱心なる母親の質問

白山生

過る二三週日前記者の机上に珍らしい程熱心な母親の質問書が現はれた。時恰も總會の間際で記者頗る多忙の爲め筆を採る暇なく往月月末に至つたので御詫旁誌上で御答へすることに致しました。

拙き文して御尋ねをうけたまはり申候さてはや日はいと遠う御座候も會員のはしに列ねいたゞき申候うれしさに絆され失禮なも省みず御教訓を仰ぎ申候私事はまことに御耻き事ながら僅かに小學校を卒業致申候のみにて其の當時住ひ申候青森には女學校のなかりしが私事の最大不幸のことにて女學會に入り月々送らるゝ講義録は生みの母なく一人の友もなき方には眞に〜なつかしく嬉しく慕はしきものゝきはみにて悲しき時人の心のつれなき時には無情の書物のいとなつかしう相抱きて泣きたる事も御座候をその講義録だにおうゝ讀む事叶はず朝まだき母の眼覺めぬ程に偷み讀むか母の外出後弟を背負ながらに手習ひするかの外はなく筆とりて手紙認め書を持ちて其の一行だも讀むを見付けられ申候はんには實に針のむしろに坐するの思ひを幾日か忍ばざるべからず何かと叱られさいなされ候悲しさ思ひ出づるにも涙の種に御座候されば實に〜寢食よりも好める學問に親しむ事の能はぬをのみ悲しみ惱さつゝ、あたら修養時期の腦髓を疲らし果てたる身の只今三才なる女兒の母なる身と相成

居り申候がせめて子供だけでも立派に教育致したく切に存じ申候就きては

教育學及び兒童心理學は二通讀み覺え直ぐ必要御座候べくやも

然らば如何なる書を讀み申すべく候か家庭教育書中何か一番

有益に御座候や

保育とは技術に御座候か又心得置くべき必要御座候やも

如何にして習ひ覺え申候べきか

只今恰度口がまはり始め覺束なき物言ひながら一日一日に覺え

申候が此の際英語を教ふるは如何に御座候べきか腦の負擔重き

に過ぎ申候や又後日友達と遊ぶ時不便に御座候べくや

臍病に、人が大聲出しても泣き暗き處を恐るゝ様子御座候が捨て置きてもよろしく御座候や

飯櫃の蓋を取りて御飯をつまみなど致申候時はこれを叱りて急

ぎ止むべく候也すべて此の位の時(生後滿一ヶ年七ヶ月)より行

儀をきびしく教へ申すべくやはた餘り少事には干渉せぬ方よろ

しく御座候也

一二月月以前までは少し荒き聲を出しても泣き申候ひけるを此

の頃は餘程平氣となりしやの感致し申候父母が争論めきたる物

言ひを聞かすは勿論あしき事とは充分存じ申候が小供も争論を

好む様相成り女らしからざる性質となり申候べくや其他如何なる

害御座候はんか母たるものは其の夫に如何なる無理非道なる

取り扱ひをせられ又言はるゝとも子供の教育の爲め總てに服従

すべき事に御座候也御伺ひ申上候

子供は存外伶俐なる事を致し又は申し候時に母が必より「す、

おりこうなど、賞め申候は如何に御座候か又、芳枝さんは一番  
おりこうです」など頼れに申候も悪しく御座候や御伺ひ申上候  
優にやさしく氣高く靡聲に然も愛々しく育てたく存じ候が母た  
るものは如何なる心掛けが必要に御座候か又規律正しき習慣を  
養ふには家政をすべて規則正しく、寢食其の他の時間をきびし  
く守り居り申候は、それにて子供も規律を正しく相成申候哉否  
や御伺ひ申上候早々

フレイベル會

御中

御尋ねの件段と御返事延引致し申譯御座なく時  
下本會の總會期日前なりし爲め餘事に忙殺され居  
り爲めに御返事かくれ申候  
教育書は多少御讀みなさる方必要に御座候  
左の二書御勧め申候

松本孝次郎

下田 次郎

實際的兒童學  
女學校用教育學  
保育に關する書は右の二書御讀みなされ候上御尋  
ね下され候は、御知らせ申上可く候  
總じて教育は(保育も)凡て一種の技術に候へば教

育書を読みたりとて直に教育の實際に十分なりと  
は申しがたく候要は教育書を読みつゝ實際の練習  
をして朋に落ちぬ處を能く糺すにあらざれば理論  
の活用は六ヶ敷と存じ候

幼兒に英語を教ゆることは差支御座なく候へども  
之が爲めに子供が苦痛を感じたり厭ふたりする様  
なやり方ならば書有るものと御承知なさる可く候  
英人や米人の子供は決して苦んで英語を覚え申さ  
ず候若し幼兒が日本語を覺ゆる様に何の苦もなく  
英語を覺ゆると同様に英語を教ゆる手だて有之候  
は、決して差支御座なく候併し特別なる教授を施  
して教へんとすることは有害と存じ候

臆病なる御氣質の由是は伶俐なる幼兒の特徴にて  
御心配は御座なく候成る可くはがらす様の事な  
き様御注意なさる可く候だん、智識の増すに連  
れて減し行き申可く候  
飯櫃の蓋を取りて飯粒を握ることは是も幼兒の普通  
にて候無論止めさせる必要有之候へども之が爲め  
に喧嘩を生ぜぬ様氣轉をさかして子供の注意を他  
のものに轉する様願はしく候

行儀はだん／＼と羨けること必要に御座候へども  
 一時に澤山仕込む様のことなく、又子供にも強い  
 て努力させないで知らず／＼の間に行儀が能くな  
 つたと云ふ様に御仕込なさる可く御心掛なざる可  
 く候

荒き聲に驚きなされ候由尤もに御座候  
 是は親御の方にて御謹みなざる可く候小生は幼兒  
 の前にては大人同志の談話とても荒き聲にては致  
 さぬ様謹しみ居候

父母の争めきたること(殊に眞の争ひも)は御説の  
 通りにて悪しきことに御座候常に荒き聲を聞きつ  
 け候時は自然荒き聲を摸倣する様に相成る可く、  
 荒き聲にて話さねば感ぜぬ様にも相成る可く  
 夫に無理非道な目に遇ふと云ふこと若し事實に候  
 は誠以御氣の毒に御座候併し之に對する妻女の  
 道は相當に採る可き處之有可しと存じ候一も二も  
 なく一概に屈從せよと御勸めも致しがたく然り  
 として固より反抗して可なりとも申上兼候篤と御熟  
 考の温和なる方法を採るが妻女の道に有之可く候  
 子供をほむることは決して悪くは御座なく候

子供はしかりて羨けるよりははめて羨ける方害な  
 くして益多きものに御座候唯はめ過ぎてうぬぼれ  
 たり、傲慢になつたりせぬ様御注意なざる可く候  
 優さしく氣高き子に仕上げんには子供の目に入る  
 人々殊に家族及常に交際する人々を先づ優さしく  
 氣高き人にして、家庭の整頓、裝飾、凡べての人  
 の衣服、裝飾等を充分氣高くし其行を優さしく  
 致し候は、子供は自然やさしく氣高く相成る可く  
 候殊に母親は自身先づ理思のものとならねば不都  
 合に御座候、母親が荒々聲にとり立て、子供は  
 優にやさしくなどは誠に虫のよき注文に御座候  
 へば此點は切に御注意なざる可く、子供は母親の  
 鏡と申す諺、恐れ畏しみて服膺なざる可く候  
 鷹揚なる氣質はしかりこらすことなくして然も少  
 しも悪るいことをなさせずに育て上げたと云ふ時  
 に達することに御座候故に子供を鷹揚に育て上度  
 く御思召候は、悪いことをしないで充分に遊ん  
 で居られる様な設備が必要に御座候是を玩んでは  
 いけない、そんな遊をしてはいけないと一々しか  
 らなければならぬ様な處に子供を置いたのでは逆

も子供は鷹鷹にはなり申さず候又不機嫌な顔色と不親切な行とは唯見せる丈でも非常に有害に御座候右様のこと有之候は、子供は決して鷹揚にはなり申さず候

子供を愛らしく御育てなさり度由御同感に御座候それに就きて小生の御勸め申上度きは思ひきつて子供を御愛しなされ度事に御座候母親に向いて子供を愛せよと云ふ誠に釋迦に説法の感有之候へども併し概見する所我國の婦人には真に能く其子を愛するものはまことに類少き様存せられ候然して愛らしき心、愛らしき行、と云ふものは愛さるゝ所に生長するものにて、人に愛されしことなき人程、世ににくらしきものは御座なく候、併し御断はり申候小生の愛は決して犬や猫の愛にては御座なく教育上に害を残す様な愛を云ふものにては御座なく、かばあさん育は三百安いと云ふ如く徒らに甘やかすのみが愛には御座なく候又規律正しく御躰なされ度由御申越の通り毎日の生活を家族全體が規律正しく致し候へば之は自然養成し得ること候之は唯御説の通り御實行なされ

る可く候

先は御答迄勿々頓首

筍の効能

筍といふものは、勢の強いもので、病人や子供には宜しくないなど、昔は云つたもので、餘り成長して硬くなつたのならば、纖維質が大部分を占め居りますから、消化しないで、随つて胃腸に害を及ぼしますこと云ふまでもありませんが、若い軟い筍でさへありますならば、只に味の美いのみならず、多量の澱粉質と蛋白質を含んで居りますから、滋養になること云ふまでもありません。唯、前にも申します如く、硬いところは消化しませんから齒切がよくつて好いなど、云はずに、成るだけ先の、白い皮を被ぶつた軟かいところだけを食へることにしなければ可けません。

△筍の珍な料理

筍のお料理は随分と淨山あります、先づ田樂、梅和、木の芽和、胡麻和、田夫煮、つけ焼、白酢和、丸焼、ひたしもの、吸物。等いろいろとありますが、いづれも昔から仕來りのお料理で別に珍らしくもありませんが、只一つ精珍なるものを申しますと、筍の廢物利用とも云ふべきで、これは先の皮の本の方の白いところだけを湯で煮て、それをば適宜に庖刀して、和物をこしらへるのであります。味噌は、山葵味噌です、芥味噌でも、胡麻味噌でも何でもよいです。

いなとぼら

川口孫治郎

松柏科の大深林幾十里に互る落葉の下葉が、集り集つて、古世紀層の溪谷を洗ひ來つて、汪洋として海に朝するその川口では、大砂小砂も大抵は蛇紋岩の大丸小丸であつて、岸邊に沿うた蘆荻沮渚たるその先きの、淺瀬に、恰々として自適せる魚鱗の數へ得るゝまで澄み渡つて居る。此川筋が我輩の過去の腕白の舞臺の一つであつた。後年、隅田、利根は勿論、信濃川口で數日復習をしたこともあつた。殊に筑後川口では四ヶ年ばかり小供の時の復習をやつてみたが、此等の川々は皆中積層の間を流れ來る爲に趣が前のものと多少違ふところがある。そこで先づ前の澄んだ川の方から話をしやうと思ふ。

桃が咲き櫻が次ぎ李が開き梨が綻びて來た春の末、何となくチラ／＼と晴々しき平穩な潮が、あの沮渚たる蘆や荻の叢差と茂ひ立つた水際までかゝり寄せて來る。そこに何をあさるにや小さな奴共

約一個中隊ばかり一列になつて、各自頭を下に吻もて砂泥の上を忙はしげにつゝきつゝ、尾を稍上に水面と四十五度位に保ちつゝ、打揃つて行進して居る。熟視すれば、鮒兒にしては細く、鱧兒にしては太く、試に彼等に豆大の砂を一兩個見舞つて見ると、其一群が一列のまゝで左右前後都合のよかりさうな方向に、素早く進退する。それは鱧の子供即ち「イナ」といふものどもに相違ない。

彼等の進退する要領を能くのみ込んでかいて、編目の細かい又手の可なり大きなのを、陸から長柄もて、巧みに突然に彼等の逃路を塞いでやると、彼等は慌て、皆網の中に駆け込んで終う。

小供の時代に我輩は、父にねだつて到頭二人の漁夫を雇つて川狩をした序に、右の方路で、一網無慮三百許を掬ひ上げた。水箱の中で彼等が逃げ口を求めて非常に跳ね廻はる有様、後年であつたならば之は人生でいへば、煩悶とでもいふべきものかと思つたかも知れぬが、當時は唯もう彼等の元氣に騒ぐ有様が面白くて、殆んど夢中になつて喜んで見て居つた。愈歸宅することになつて船を



他の岸に着けた時に、他に五六の雑魚は水槽に入れて携へ歸る仕度をして呉れたが、例の鰯の子供等を逃がしてやりませうと漁夫から建議があつた。父も無論賛成せらるゝ面持であつた。之に聊か驚いて原案維持に中々努めて居ると、漁夫共は口を揃へて、鰯は幼時は潮水と淡水とをたゝかひに生長するもので、潮がさゝば川の中流までも上つて行くこともあるが、元來は海が本宅であるのだから稍成長すれば皆海に歸つて終うものである。されば全くの淡水では育つものでない。三百も持つて歸られてそれ等を皆死なしてドウなさる。と我輩に忠告である。父からも、其方の家は淡水の流るゝところ、鰯の家は潮水の通ふところ、其方は之から家に歸るのだ、鰯兒も定めて其家に歸りたいであらう、と諭された。併し當時の我輩の胸中は、白髪の老爺になつた今日でも尙ほ明瞭に記憶に存して居る、實に簡單なものであつた。即ち自身で手を下して受けた網に之れ丈も捕れたのであるといふとを、家にある母に誇りたいと思ふ一念のみであつたので、遂に一夜丈我家に留めお

翌日は一切逃がしてやりませうといふ條件付で、我輩の願意が父より聽届けられ大得意で、漁夫に持たせて家路に就く、途中でも尙ほ時々益をとらせて彼等鰯兒の動靜を見て楽しんでほゞど、家に歸つてからは其捕獲の功名談で一同を困却させたらしく後日の笑はれ草になつた位であつた。

扱、翌朝になつた。父が外出せらるゝに際して、今日はあの鰯の子供丈は逃がしてやらねばならぬぞ、と重ねての申渡をせられたし、母も、折角だつたけれど死なしては可哀想だからと言ひ聞かざるゝので、遂に致方なく逃がしてやることに決心した。自分も揃つたのだから逃がしてやるのも自分でやりたいといふ小供心、下男の助けを借るのが厭やで、弟と妹と吾輩とで三人揃つても一人の大男に足らない小供ながら三方から棒を組んで、其中心に例の鰯の小供三百許と、總勢賑々しく大名の行列よろしくといふ態で、「鰯遁がし』に行くことになつた。

小供といふものは何處までも小供だ。遁がしに行くとして騒ぎながら、何處へ遁がすといふ明瞭な

觀念は我輩にすらなかつたのだから況して弟や妹にあらう筈がない。遂に誰が發議するとはなしに、提げて歩くのが重くて槽内の水が波立つて、搖れて／＼苦いから、一番手近かにある、平たくて淺い大きな貯水池に遁がしてやらうじやないかと、ドウかの拍子で議忽ち三人の間に一決してしまつた。

愈、池の水際に水槽を下ろして、三人が交番に、帆立貝の杓子で、バチ／＼跳ぬる鰯を掬ひ出して、盡く遁してやつた。始め之を放ちしに留圍焉として居つたが、程なく悠然として行つてしまつた。之でやつと、身からも心からも重荷を下ろして終つて三人は楽しく歸つて來た。

右の趣、早速に兩親に報告し、「其處を得たるかな」と御褒美にでも預かるつもりのところ、豈圖らむや、父は突然可笑しさに笑ひ出され、母は困つたやうな容子をせられて居る。弟、妹は呆氣にとられて居る。そこで聰明睿智の我輩も辛うじて氣がついた。成程、淡水の池へ放したのが、聊か賢明に過ぎたといふことを悟つて、いたく赤

面し且つ鰯君達に相濟まぬことをしたといふ後悔の念が壓しきれなかつた。その後、鰯などの話が出るど何時も其席を避けるくらゐにまで參つて居つたのである。實は腕白な割合に小心であつたと見えて、當分其池の近くへも行かないようにして居つた。強ち三百の亡靈に苦しめらるゝであらうと心配したわけでもなかつたらうが。

青葉の夏も過ぎて、右の失敗を人も忘れ、我も忘れた、袂涼しき秋風の吹く、所謂天高氣清の九月下旬の一日、容易に笑ひ給はぬ父は、再び笑まつ、殊に此度はいとくつろがれつゝ、可笑しいこともあるものかなと、外から歸つて來られての御話。

聞けば、五月以來、灌漑に用ひた彼の貯水池の餘りの水も、親補差替の爲に此際溜らすことになつて、明後日あたりは全く溜るゝであらうと期待せられた今日、何人も思ひ設けぬ素敵に大きな魚族が、一列になつて、縦横に進退する、併し鯉ではない況して鮒でもない、何んでも餘程活潑に跳ねる魚で而かも其數が約三百許もあるとの事。父

の此話によつて母は我輩兄弟妹の面を見ながら、如何にもうれしげな容子をせられて居る。聰明睿智の我輩は又候、狐につまゝれたやうで、唯茫然として居つたが、頓かて父が、「青まいと思つた鱈がドウも不思議にも申分なく成長したと見ゆる」といはれし時に、やつと氣がついて、ドウもかうも話に出来ぬほどうれしくて、本當ですかくと繰返すと、父は偽はいはぬと笑つて居らるゝので一層不安に思つた位であつた。

一家で漁獲したとて面白くないから、といふことで、里の若者残らずに通知をして、明日午後、有志の競漁大會とでもいふやうなことを舉行しやうと決定した。明後日では水量が甚だ減する故、多人數で楽しんでやるには却ていかぬといふ心配から、割合に水の多い明日としたので、當日の面白可笑しき光景は、今尙はあり／＼と眼前にちらつて居る。其百人許の屈強な若者達の競争の委細などは茲に必要がないから略しておくが、唯一つ我輩に著しき印象を興へたことは、僅か一年で、尺にあまるほどにも大きくなつて居つたことであ

つた。即ち鱈は其成長の極めて速かなものであることを始めて知つたことであつた。

此競漁會の傍觀者も随分澤山であつた。其中に、郷先生まで出席せられて居つたが、其頃……イヤ今日でもさうだが……先生といへば、何んでも知つて居る生きた神と信じて居つたから、早速、鱈に就いて御尋ねをしたところ、其先生、今から考へても流石に先生であつた。漢學の先生に似合はぬ粹人か但しはハイカラ一か、近世の科學的智識に富ませられた先生であつたと見えて、何の造作もなく、

此魚はナヨシ又は名吉といふ、江戸では初生のものをラポコといひ、二寸にもなれば洲走りといひ、君の前にある位のをイナといひ、海へ出て、年を歴て更に大きくなつたのがボラといはれて居る。更に大きくなつたらドといふ。と説明せられた。そして其先生も、淡水池のみで育たうとは思はなんだ、と切に珍しがつて居られた。我輩は其時ふと、此魚は仲間が海に出て、所謂ボラといふものになつたら、どんなにして暮し

居るものであるか、それを知りたいといふ願が起つた。

魔神の手にせる大鉞を以て、殺ぎとつたやうに水面と正しく直角をなして、其脚部を渦巻き來る海潮の浸蝕にまかせつゝ、高く聳えた藤白山脈の極端の絶頂に、松の木立を背にして、白布を敏活に意味ありげに振つて居るものがある。何だか海濱から一里許も沖なる一組の漁船の一つに便乗して海から彼の山嶺の信號を見て居るのである。漁師の親方の話によつて、それが他事ならぬ我等一組の漁船の總指揮官の本營であることが分つた。専門に發達すれば、恐しいもの、彼本營の信號者の眼には里餘の其方の海の色合によつて、船の一群の行進する方向が明亮に分かるらしい。

見る／＼中に、彼の信號によつて、我輩の乗れる漁船を一方の先頭として一組十餘隻が靜に單縦陣に開いて、全線約十町にあまる長さ網を下しつゝ、漸次に大半圓を畫き、傾がて双方の先頭船は或大距離を持して平行に前進し始めた。之は全く

船群の進軍し來るを逸早く認めて之を遠巻きに待受けにかゝつたのである。先刻、一遊撃船が遙か前方で小石を海面にバラ／＼投げて居つたのも、船の一群が中途で方向變換をやりかけたのを、山からの信號で覺つて、網の方向、即ち最初彼等のとおりし方向を變ぜざらしむる爲に、巧みに豫防したらしい。愈、船軍勇ましく此方の網中に奮進して來るらしい。此方の双方の先頭船は、間を船軍が通過しつゝ、あるを認めながら、船軍とは行違ひの方向に徐航して居る。

折柄、山からの信號が一種の急調を示して、ピツタリ止つた、と同時に兩先頭船は急に方向を轉じて相合すべく斜前に、全速力を以て漕ぎ出した。之はいふまでもなく、船の群が全く包圍の圈内に入つたからである。

兩先頭船が愈、網で連絡すると、全くの一大圓陣で、船群は早や網に包圍せられて終つた。此包圍の完成すると同時に、周圍の十餘隻は一時に其軸を、陣の中心に向けて、各所定の部につき、其部の網を警戒しつゝ、漸次に圓周を縮めにかゝる。

鰯群の方では、其先頭が網に觸れたので、急に  
 方向を轉じて復た網にふれ、茲に大恐慌が起る。  
 大きな奴が波の間に、丸で蟲蠶の彈くやうにキラ  
 ンとして見ゆる。網の漸次に引寄せらるゝにつれ  
 て、ぶつかりやうによつては、水面から三四尺  
 も高く、甚しきは五尺にあまるばかりにも跳ね上  
 がつて、誤つて船の内に落込む鰯もある。  
 昔、平清盛が嚴島に參詣の際、魚あり躍つて  
 其舟に入るとある。それも此鰯のことである。そ  
 れを吉兆だとして大層喜んだとある。今我輩の共に  
 乗込んで居る漁師共は、迷信に就いては流石の清  
 盛でもかなはないほどの執心家等であるが、唯此  
 鰯の飛込みは、常住あることで、従つて別に珍し  
 がりもしない。唯我輩は生來始めて自分の膝頭を  
 大きな鰯にバチ／＼やられた時には甚だ面白く感  
 じた。

段々と包圍の船が中心に押寄せる。従つて此等  
 に率ゐられたる包圍の一大圓網も追々に狭く小さ  
 く縮められて来る。従つて船も漸次に一艘二艘と  
 優退して、乗組の一部は隣の包圍繼續中の船に助

勢に移り、残りの小坊主などは、優退船中で、成  
 行きを見學して居る。何か食べて居るやうすだつ  
 たから、我輩は包圍船から不圖注目すると、彼等  
 漁師の小兒等は前刻跳ねて飛び込んだ例の大鰯を  
 開いて細繩もて是を舷より吊して暫し潮に浸して  
 置いて、今やそれを片端から平げつゝあるやうす  
 亂暴な間にも又何處かのんきなところがある。  
 愈、包圍船が昇後まで押寄せた時には、舷の高  
 い漁船二艘丈が、網の引上げをするのである。舷  
 の高いのに定めて居るのは、鰯の飛出して逃げる  
 ことの夥しさを防ぐ爲である。

此引上げの際の、漁夫等の奮闘と、網中の大鰯等  
 の縦横跳ね飛ばす騒動とは、茲に書かぬ方が却て  
 讀者に能く想像せらるゝことと思へるから、一切  
 御任せいたしておく。



湖畔記

朝露生

セイラ、ネバタの山中にウエバー湖と云へる避暑地がある。去年八月、余はホテルの洗濯人としてこの仙境に遊ぶことを得た。三十餘人の客と十餘人のホテル員との洗濯ものを、一人にて引きさうけたることとて、毎日十二時間の働さづめ、滞在四十日、サンデーの休息もせず、奮闘したのであるが、勝地の風光は流石に東海の窮兇を慰め、月に歩する湖畔のながめ、露を踏む曉のそらあるさ何れも思ひ出多き樂を吾に與へたのみか、平生親しまざりし白晝の客も、山中の清風に薰ぜられて、十年故舊の友の如く思はしめた。

またお邪魔にさましたよと洗濯室に入り来るは給仕女のピセーである。時は午後二時、彼等のためには休息のタイムなのであるが、これも分陰を惜しむヤンキーレデーのはしくれ、自らの洗濯ものをもち來りて、わが洗濯場の、隙きたるを窺ひ忙がしく洗ひ乾かし、わがテーブルの片はしを借

りて、昨日の洗ひものをアイオンするのである。吾より二寸ばかりも丈高からんと思はるゝが、動作いとしとやかに、されどアイオンの手先器用に、吾とアイオンの早さを競ふこともある。日ごとのものがたりは吾は彼女が教師ポストンより、近きころ加州に來りたることをきき、また彼女の兄はスタクソン市にありて商業を営み居ることも、彼女が加勃氣風を好まぬものから、加勃の女たちと意氣の投合せぬことも知てゐた。どうですへセロは今日御機嫌はい、ですかと吾は笑らて尋ねたへセロは彼女が好まぬ加勃ッ子の給仕女で、片かげにては彼女を譏誣中傷して快として居る田舎娘である。相異らずツンケンしてゐますよとピセーは眉をひそめる。へセロはこの山中の村里の産れであつて、松林の雷火に焼けたる話より、湖水の魚の大きさまで、わが家のことのやうにものがたる。従つて客の誰彼にも、もてはやされて、けふも砂金が拾へると云ふ澤邊にレデーだちも散歩としゃれてゐる。へセロの眼はいつも高慢の光をやとしてゐる。その口もと人の悪口を云ふために

まぢかまへてゐるやうに見ゆる。薄き唇の少しくつき出で、一寸と繻へらんとしてゐるところ、事あれかしとまぢかまへてゐるやうだ。その鼻はアメリカに珍らしくも思ひキツて低く、ジューノースの反對に、昂然として上天を見はつて居る。レデーたちの眞似して廂髪に苦心して居るらしいが都ぶりに押しつぶして、意氣な波をうねらすことを知らず、タマレの包を頂きたるやうに丸くつかねて頂上に伸といまらせてゐる。アレでは廂でなくてお寺の丸屋根ですよとはピセーのがらになき悪口である。客と云ふは多くはレデーだちにて、男客はその夫だちなるが極めて少数である。女教師、學生、會社員などのこの一ヶ月を山中に凌がんとして來るは多く、ホームをつくりし富める夫婦などはこゝよりは寧ろ繁華なるタホ湖を擇ぶのであらふ。シングルなるレデーたちの、虚榮にあわがるゝ心、せめてこの山中に居る間なりと乙女心の無垢なる昔にかへれかしと希ふのであるが、衣服は山中の質素に甘んずるも、指環に髪に將た耳環に、都會の生存競争はその余勢依然とし

て彼等に附隨して、目に見えぬ波を常に高く揚げてゐる。誰が眼にもソレとゆるされてゐる美人はこのホテルに三人あるうちに、ピセーもその一人であることがピセーのためには不幸の一つとなつた。こと更に黒人の婢女をつれてあるき、對照の拙策にて幾分の勝を占めんとするなど、可笑しき藝當を演ずるはこの國のレデーである。へせロの歡迎せらるゝはこの意味ではあるまいが。ピセーは或意味に於て敵視せらるゝ理由もこゝにある。アー暑を避くるの山中、烟霞深くとざして浮世の音づれを絶つて居るのであるが、淺ましき煩惱のけがれは、この明鏡の湖水でも洗ひつくされぬのであらふか。女はまことの罪深きものよと、吾は憐れにも思ひながらアイオンをしてをる。ピセーはもの靜かに人々の噂をものがたる。話はやはり美しき人の品さだめである。彼のゆるしてゐる美人はマーシヤル嬢で、その次はウキツ嬢であると云ふ。マーシヤル嬢はすでにエンゲージせる情人ありて、こたびもその人と共にこの山中に清遊してゐるのである。嬢はネクタイの新らし

きを好み、日ごと洗濯しスターチシまたアンオンして、自ら純白、雪のやうなるを用意して置く。そのレースの色々なるはボストン生れのピセーだに驚歎してゐる。かゝる好尚よりマーシャル嬢もわが洗濯室に日ごとに入出して、面白き話をかたりつ聞きつする。ピセーのかたるところによれば、未來のバスバンドは動物學研究の學者にて、當時大學院にあり、卒業の曉正式の結婚することになつてゐるよし。ホテルは三棟あるうち、二人は相別れて宿つてゐる。林をへだてたる窓と窓に燈影相望みて清き戀草に花さかして居ることであらふ。

ピセーの話の途切れたる頃はいつもマーシャル嬢の忙がしげに入り来る時である。東洋の無骨男を捉へて、新装の相談等批評をもちいだすのには閉口する。マーシャル嬢はピセーより首一ツほど低い。心理の錯覺を利用して、編ものは常に縦てなるを用ゐる。かゝどの高き靴と、瘦がまんの薄着とは、自ら娼婦としたる姿を現する、ピセーの洗滌なるに反してこれはまた快瀾が過ぎるほどであ

る。つれ立ちて來ることある彼女のスカートハートも、飛んだりはねたりのダンスの眞似や、軒の雀も叶はぬオンシャペリに恐縮して、ネー君、こんな女は洗濯屋に奉公しても、直ぐ免職を喰ふだらふよと、まのわたり攻撃することもある。されどマーシャル嬢は文學を解し宗教を味ひ、三美人中の學者である。講義口調で滔々とのべたてる時は、立ち聞させるへセロなど、何のことを云ふて居るか少しもわからぬのであらふ。

晚餐後は吾も仕事を終りて、船を湖心に浮べ、ホテルを晝中にながめることもある。男たちは獲ものを載せて、釣舟ゆるく歸る頃、岸の一群、吾も吾もとハンケチをうちふりて歓迎する。呂尙の妻ならなくに、魚籃をのぞきて、獲もの、少きに大笑するレデーもあるであらふ。男たちのうちに、マーシャル嬢の伯父なる禿頭の男、最も釣道樂に精通してゐるらしい。一日思ひかけなくも晚餐早くすみて、釣人をまつ間、常よりはながく思はれしことがあつた。五六の少女たちは砂の上に腹ばいて笑ひ興じてゐる。



波よする岩の上に腰かけて吾は夕暮の雲をながめてゐた。笑ひさへめく聲に想の宮より逐はれ、ふりむけば女教師連の七八人、中にはピセーにマーシャル嬢も加へてゐる。東洋の戀物語を聞かうである。申し合したやうに髪のがきウルサキ動物は、岩のはとりに集つた。よし、御話しませう。ふるき物語は興なきもの、吾はわが實際のまことの想をかたりませうと吾は昂々然として嘯いた。

一同岩に腰を下ろしてかたれきかんとひしめいて居る。この國での御話ですか、お國であつた御話ですかと例によりてさしで口をするはマーシャル嬢である。想の紳は情の野邊に萌え出づるもの、地上の場所の是と彼れと、あげつらふ限りではないと先づ一つヤリこめて見た。とにかく御話して下さいと、鼻めがねの女教師は云ふ。去年の暮であつたと吾が言丁らぬうち、ではこの國のですね一面白いとすッペコベと云ふはマーシャル嬢、ピセーは眼にもの云はせてこれを制し、膝をすゝめてこなたを見つめてゐる。余はかたりはじめた。

愛はまことに神秘である。人の力にて動かすことの出来るものではない。つまりこれは浮世の奇蹟の一つであつて、この大靈方に捉へられたものは潔く服従して、その蜜の如き甘き情を味ひ、その針の如き心の惱みにも刺されねばならぬ。わが想の糸もつれ初めたのは忘れもせず、十二月十日、十字の街に時雨して、風さへこれに加はりともすれば傘を奪はれんとするを、身をかはして立どまつた。この時吾は大自然の掌に戯弄せられ密と針とを等しく呑まされんとしてゐることを知らなかつた。彼女は人を魅する笑みをもつてゐたのでもない。さりとして愁を帯びたる面貌の、人の同情を引きつけずに置かぬと云ふわけでもなかつた。唯その碧の目の底にわが魂を蕩かして、限りなく沈みゆかしむる情の大海原のあることを見る。天地も人生もこの海原の波の泡のやうに思ふた。彼女は伊太利の鄙乙女である。余はかくかたり終りて湖のあなたの岸に眼をそらした。それからどうしましたとの問はかなたにもこなたにも余は再び語りつづける。余はその后幾回となく彼

女と遇ふことができた。うるはしの眼に想の扉開かれて吾はいつも浮世のそとの海原に遊ぶのである。人の身の淺ましきには、吾とても彼女を宿の花として、ひとり眺めばやの希望起らぬこともなかつた。されど思へばこの妙へなる想こそ戀の光だのであつて、わがものにせんと野心あらば、玉は地上に碎け落ちて仕舞ふのであるまいか。吾は今も彼女を戀してゐる。されど再び彼女に遇はんとは思はぬ。そは、彼女は常に吾と共に居るからである。見玉へ諸媛、星現はれし夕ぐれ空、柳けぶるかなたの岸、彼女の面影の一つではあるまいか、今この足もとの波の音、彼女のさゝやきの聲ではあるまいか。誰れか云ふ、戀にはかやみ多しと、吾は密と針と等しく呑み終りて、唯無明の酔心地に歌はんとしてゐるばかり、苦か樂か自ら知らぬのである。かく云ひ放ちて、折ふし森の樹の間に、かゝれる三日月をうち仰ぎ吾ははゝゑむことを禁じ得なんだ。ホんに麗はしい夢ですること、ネーとはピエーの歎聲である。だめですそんな空想では、人情の琴が音色をだすもんですかとは、

マーシャル嬢である。手紙は折々くるのでせうネーとは、年若き女教師の一人である。彼女は手紙を書くことを知りませうと余は奇語を放つた。衆呆然。彼女は身動きも出来ぬのですと、余はそろそろ覆面をとらんとしてゐるが、聞く方ではあらぬかたにのみ心を運び、どう云ふ身分ですのとかかわいさうですのとか、思ひ思ひの評語を加へてゐる。余は咳一咳した。そして事の真相をさらげだした。みなさんはとうと私の術中に墮りましたナア。私の戀人と云ふのは、血や肉やの危介な荷物ある活きた人間ではありませぬ。オー克蘭ドはサンバブローアベニュー、御存知の店先に街頭の花と歌はれてゐる伊太利少女の水彩畫ですよ。皆々ドット笑ひ崩れた。馬鹿にしてゐますこと。何のことだつたらない。など口々に云ひ罵りて恰も歸り來りし釣舟を迎へ、一同立ち去つた。とうとうわがために擲擲一番せられたのである。ウキツク嬢と云ふは桑港のハイスケールの生徒である。母に伴はれて暑をこの山中にさけてゐるもの、平生不得手なる佛語と代數氣にかゝりて、

朝も自ら早く起き出でらるゝと云ふ神經家、わがランドリーの仕事はじむる頃は、ホテルの廊下に座して、書を読んでゐる嬢を見るは常である。近眼鏡は誰しも好みて用ゐるものにあらず、やむを得ざればなりであるが、圓く太りたる顔に金縁のきらめくは興さむる心地する。寧ろなきには加かぬは云ふまでもなきことながら、ウキツク嬢の瓜核顔には、その近眼鏡よく調和して反つて一種の威嚴を添えてゐる。この國ぶりに髪をつかねて、首筋を徹ふばかりひろく垂らしてゐる。自ら顧みれば結び目までも見得るやふな大きなリボンを用ゐて、しかもそれがいつも黒色であるが、蒼きに近きほど白き面には、ゆるやかなる美を添ゆることが出来る。衣服は學校のまゝらしい。藤色のコートに同じ色なるスカーツ、帽子も羅紗の平凡なるに花一つ造りつけたばかりである。代敷の難問に手傳ひしが縁となりて折々アイオンの手をやめて、+を書き合ふことあるが、南技に先づ開く白梅の、凜とした匂ひ自らけだかさところがある。ピセーの眼からは人生の春はこれよりとこそは、

危まるゝであらふ。ウキツク嬢は十七、マーシャル嬢は廿一、ピセーは何才なるか疑問である。自らは廿四と稱して居るが、マーシャル嬢は廿四にプラス六であらふと嘲り笑つて居る。何にしるその眼が所謂「茅が崎の眼」の光を帯びてゐる。情海の慘苦を凌ぎ来りし上ならでは、かゝる變化不測なる異光を琢ぎ出されぬのであらふ。獨り窓に倚りて悵然としてゐる時などは、プラス六の言の誤まらざるを知ることが出来る。マーシャル嬢は雨の晴間の海棠ならば、ピセーは散り際の櫻である。憐れなるは女性の美の運命である。一念吾老ひゆくと思ふとき、誰れか戰慄して、前途を畏懼せぬものがあらふか。骨格と筋肉との美的配合の外、時の彩加はりてこそ青春の美かがやくのである。醜さへセロとして眉目の間にらうたき匂ひのさまよふあるは、人生の春まだ若き淡雪の消えんとして未だ消えずに居るのであるまいか。この賜は彼もウキツク嬢も等しくうけてゐる。マーシャル嬢もピセーも過ぎこしたかの戀しさを想するであらふ。ア、夢の浮世、はかなの人の命、されど永劫の使

命吾等の手にあるものを吾等徒らにゆく春の面影  
に別れを惜むべきにあらず、夏の山路の青葉若葉  
秋の高根の月の色、冬の窓うつ時雨の音、いづれ  
か天地悠久の曲眉豊頬にあらざる。湖畔に開かれ  
しこの一頁、吾に或物を讀みつくさしめた。わが  
戀人は、伊太利乙女の繪すがたばかりかは。

短歌

○ 渡しよぶ朝川づゝみ雨はれてみどりにかすむ柳影かな  
淺井 眞末

○ 破し琴にそよる輿やる春かれて薄色袂いろあせにけり  
金森 千代

霞こき花野にそよる迷ひては行くてはかなき我思ひ哉  
朝づく日眩かりせば垂頭てはづかしむかな海棠の女  
春なれや涙の谷をそと出て、人にちかづく鶯のこゑ

○ うらゝ日を野に若菜つむ乙女子の裳にもゆる春の炎陽  
瀧野 照子

日あたりの障子のやれ間そとられて花の香のせぬ春の  
なご風

○ あゝ何を夢見て笑ておはすこと母の御顔を守る夜半哉  
美濃 新子  
白雲の凝りてなりに、君かとも思へおん頬のあまり清  
きに

○ 鈴木 野石

寛の神が呪ふかの様ひゞき來る水車のほとり紅桃のち  
る  
臙夜に君が奥津城とむらへば我胸みだし花吹雪する  
○ 菅原 櫻心

うつむきて秘めし思ひに様も似て奇しき姿の姫百合の  
花  
草木の美しき花將た鳥のこゑうるはしき春の森かけ  
思ひては涙ぐむ君そよにもとに泣きたる日を忘れ得  
で

○ 黄金しく菜畑千里うすかすむかなたに白き帆は眠るよ  
小野 春香

○ 呪はしき我季の音をたどり來し子規かな青葉ゆふまど  
庵かこむ梅か香ゆりて鐘ぞ鳴る野は霞する明方にして  
朝倉 みち子

○ 新らしく世によみがへる心地しぬ朝明け清き鶯のこゑ  
見るがうちに疑の雲ひるごりてあはれふきしく花吹雪  
哉

○ 春の日やふたりの胸に棚引きて物皆清き彩かすみ哉  
清 水 澄  
花くもり曇りし胸の扉をゆりてひやく夕鐘つめたか  
らすや

\* \* \* \* \*  
○ 春の宿姉と妹の二人は臙夜かたる  
起 雲  
花のおはしま

○ 琴抱きて二條を下る少女子の紅梅衣に、  
春の雪ふる

（投稿）

伊勢白子局区内 眞宮 宛



強 い お 馬

ホ調二拍子

<u>1 1 2</u>	<u>3 2 3 0</u>	<u>2 3 2 1</u>	<u>2 1 2 0</u>
ツ ヨ イ	オ ン マ ー	タ イ シ ヨ ウ	ノ セ テ
<u>3 2 1 4 0</u>	<u>4 0 5 0</u>	<u>3 2 1 4 0</u>	<u>4 0 5 0</u>
ト ツ ト コ ト ー	ト ー ト ー	ト ツ ト コ ト ー	ト ー ト ー
<u>1 2 3 3</u>	<u>2 1 6 5</u>	<u>2 2 3 2</u>	<u>1 0</u>
ヤ マ ア モ	サ カ テ モ	ヨ ク ハ シ	ル

若原 三郎

雨の日

鈍子 譯

花子さんは今日こそ折角摘草に出かけやうと思ふてゐましたのに、人の心も知らないで、春の雨が降つてゐます。それがシヨボシヨボとふる位ならまだ可愛らしいのですが、音をたて、ザアザアとやつてゐます。花子さんは窓の前に立つて、お鼻で窓硝子を押しつつ、イヤな雨ツたらないとつぶやいてゐるのですが、外は風のお手傳もあるのでザアザアバラバラとやかましい雨の音、太郎さんの鼻聲なんか誰れも聞き手はわりませぬ。イヤだイヤだ、ヤアだアと花子さんは泣き聲になりました。そして……コツンッ知らしてあげます。が子……大きな涙が、外の雨にもまけないと云ふ風に、窓硝子の上を轉けて來ました。見てゐらつしやらないだらふと思ふてゐた祖母さまは、ついそれを御覧になりました。祖母さまはいつでも花子さんのお困りの時、チャントそれを御存知なんです。オヤオヤオヤ、内も外も大雨だよ、どうせ

うかしらと、祖母さまは仰せられました。ト見るとめがね越しにこのちを御らんになつてゐるやさい御目、ハツト思ふて花子さんは大急ぎで涙を拭ふて仕舞ひました。泣かないやうに我慢して、元氣つけた聲で……でもまだ鼻聲でした……だつて祖母さま、日曜に雨がふつてゐるんですもの、私、何ンにも出來やしない。昨日の朝、買ふてきた本を讀んだらい、でせう。私よんで仕舞ひました。もう一度讀んで御覽。私は棒をなくして仕舞ひました。ソレではしかたがないよ、おまち、こうつと、祖母さんと二人で遊びませうよ、御前は店をだすまねをするがい、私は貰うお客様になりませう。

花子さんは、祖母さまと遊ぶこと大すきでした。こんな御話があつたので、モ一雨のことなんか忘れて仕舞ひ、そこら中をかけ廻つて、店の品物になるやうな、本やら小箱やら、お小皿、糸巻、紙きれなどを、机の上にならべました。鉛筆を耳にはさんで、帳面をくりひろげてゐるのは、花子さ

んの番頭さんです。祖母さまは店の前に腰かけてお客様のまねをします。

ぬらつしやいまし、結構な御天氣でございます、何をさしあげませうか。ホンニい、天氣ですぬ番頭さん、わたしは色々はしいものがありますか。先づ、お砂糖はありますか。ハイございます無類飛切極上等と云ふところで、ソレでいかに差上ませうか。サウネ一寸と五尺六寸ほど。

太郎さんは可笑しくなりました、けれども御客様だから笑つてあげるわけにゆきませぬ。失禮ですが、手前店では、お砂糖を尺で賣ること

はございませんで、へー。オヤさうかへ、それではどう云う風に注文しやうかしら。へー、一斤二斤と云う風に御願するのでございます。ハハアさうだらふネー、それではどうかお砂糖を五斤ほどソレから醋を三斤ばかり。モシ奥様、手前店では醋を斤でさしあげかねます、まことに御氣の毒さまでへー。さうかナア、醋はどう云ふ風に賣るつもりか。ハイ一升二升と云ふ風に御願するのでございます。なるほどその筈だネ、ソレでは醋を三

升と、外に雞卵を六升ほど。太郎さんは可笑しさをこらへて。

奥様、卵は一ツ二ツと算へますので、十二個は一ダースと申すのでございます。其筈其筈、ではね雞卵半ダース、ソレからお米を二ダースばかり。太郎さんはとうとこらへがたくなつて笑つて仕舞ひました。はやお客様の格も番頭の格も崩れて仕舞ひ。

アラ祖母さま、お米の二ダースはひどいぢやありませんか。まさか粒の十二粒でもないでせうし、さりとて俵の二十四俵でもないでせう、ハイお客様に申上げます、手前店では一斗二斗と云ふ風にお米を算へまして、四斗入が一俵なんでございませす。祖母様は落ついたもの、御手元は編物に急がしくてゐますが、目がね越しに、太郎さんの顔を一寸と見て、眞面目にお客様となつてゐます。なる程なる程、私としたことがサツバリ勘定がわからないのネ、イヤ番頭さんの御かげで物を覚えしましたよ、ではネお米は三俵として、序に赤いリ

ボン二儀とオリーブ色のリボンを三斗五升ばかり下さいな。

太郎さんはとうと笑ひ崩れました、腹を抱へてつ

いけさまの高笑ひ、とうと涙までこぼしてゐます

オリーブ色のリボン三斗五升とは誰れでも笑はず

に居られませぬ。

丁度その時、雨が晴れて、日の光うるはしく、ま

ことはいゝお天氣とさりました。

祖母さまは半分はお客さま半分は本當の祖母さま

でニツコリしてゐます。

サア花子や御前は外へで、遊ぶによくつたよ、

ホンに忘れてゐた、番頭さん注文の品々すぐ小僧

さんに届けさして頂戴。祖母さま、イヤお客様、

今度また雨がふりましたら、御届いたしませう。

どうか頼みますよ、ア、面白かつた、御前の御か

げで、雨のことお忘れてしまつたよ、御前の笑顔

のいゝお天氣は、祖母さん何より大好だのだよ。祖母さんはこう仰つしやつてニツコリなさいました。花子さんは。ソレではネおばあさま、今度どんなに雨がふつても、わたしは、いつも上天氣で

なませうと申しました。(終)



童話と云へば桃太郎や浦島の様なものばかりの様に思はれて居ますが斯る物語様のものばかりでなく右の様な叙事的の事も時には興があらうかと思ひます。讀者は之に對して兎角の御意見あらば御腹藏なく御發表あらんことを望みます。





フレイベル會發行

# 幼稚園遊戯

定價 金四拾錢  
會員特價參拾錢

郵稅四錢

幼稚園の爲めに編纂され幼稚園の爲めに出版されたものは本書が始めてあります。世の幼稚園に關係せらるゝ方々は是非一本を座右に備へられんことを望みます。

尙本書には女子高等師範學校内にて作られた幼兒用唱歌の歌曲並に同校附屬幼稚園に於て現今採用せらるゝ保育要項とを附録として採録致しました。

フレイベル會發行

# 幼兒談話材料

定價 金四十錢  
會員特價參拾錢

郵稅四錢

世に行はれて居る多くのお伽話は幼兒教育に不適當なものであります。本書の内容は特に幼兒の爲めに作られたもので幼稚園時代の幼兒に最も適當なものを集めてあります。家庭間の贈物などには最も妙なるのみならず、苟も幼兒教育に關係して居らるゝ方は是を標準として作話せられんことを希望致します。



行【發】會【ルベール】内校【學】範師等高子女

# もど子と人婦

## 本領

家庭の經營は六ヶ敷いもの、理想の家庭はなかく實現し難いものであります。併し現在の家庭は國家の爲めに益改良し行かねばならず、如何にせば最も完全な家庭を得可きかと云ふことは社會の進歩と共に益研究し行かねばなりません。そこで家庭研究と云ふことが頗る趣味ある難問題となる次第であります。

本誌は此必要に應じて着實な理想と穩健な主張とを以て眞正な家庭生活の意義を明にし世の家庭教育、女子教育に向つて、適切な科學的解決を試み様と努めて居るのであります。殊に家庭教育幼児教育に就ては他に斯界の指導となる可きものがありませんから本誌は進んで本邦に於ける幼児教育界の木鐸たらんことを私に期して居る次第であります。

育児に眞面目なる世の父兄並に幼児教育に關係せらる、請讀諸君は奮つて御講讀あらんことを願ひます。手續は表紙の第二頁に御座います御覽下さいませ。

\* \* \* \* \*

